

1. 科目名 (単位数)	高齢者福祉特殊講義 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP7206
2. 授業担当教員	金 貞任		
4. 授業形態	発表	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>福祉国家における社会保障制度は、男女を平等に扱うとともに、個々人の社会階層よりも各人のニーズに応じた給付・サービスを提供するという原則を取っている。しかし、社会保障制度では、職業や資産形成において不利になりがちな低所得者と女性の立場に配慮した制度設計が採用されてきた。社会福祉の観点から高齢者の生活の状況を把握する場合は、とくに社会階層とジェンダーによって異なっている点に注目する必要がある。</p> <p>そこで本講義では、社会福祉の観点から、高齢者に影響を及ぼしている社会階層、ジェンダー等の視点を取り入れた分析と議論、問題解決について検討する。その際には、ヨーロッパや東アジア等の国際比較観点から、国際比較研究のメリットとデメリットを発見し、日本の高齢者福祉の将来像を描くことができるように努める。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の観点から、高齢者の生活の状況を社会階層とジェンダー等の観点から検討する意義を明らかにする。 2. 介護保険制度、特に地域包括支援センターと地域密着型サービスの有効性について検討する。 3. 高齢者を取り巻く環境として、社会的ネットワーク・サポートの有効性について検討する。 4. 高齢者の生活について、北欧、東アジア諸国と比較分析する意義を明らかにする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 日本老年社会学会『老年社会科学誌』2009・2011～2012 年。 白波瀬佐和子『少子高齢社会のみえない格差』東京大学出版会、2005 年 Kunio Ishihara and Rokuro Tabuchi. 2012. Changing Families in Northeast Asia-Comparative analysis of China, Korea, and Japan. Sophia University Press. Ted C Fishman. 2010. Shock of Gray: The Aging of the World's Population and How it Pits Young Against Old, Child Against Parent, Worker Against Boss, Company Against Rival, and Nation Against Nation. Scribner.</p> <p>【参考書】 金貞任『高齢社会と家族介護の変容：日韓比較研究』法政大学出版、2003 年。 増田雅信・金 貞任、『アジアの社会保障』法律文化社、2015 藤崎広子・平岡公一・三輪健二『ミドル期の危機と発達一人生の最終章までウェルビーイング』金子書房、2008 年。</p> <p>日本家族社会学会 各年度『家族社会学雑誌』 碓井崧等『社会学の理論』有斐閣ブックス。 Robert B. Hudson, 2010. The New Politics of Old Age Policy. John R. Pratt. 2010. Long-Term Care: Managing Across the Continuum. Third edition. ※ 講義を進行しながら、適宜必要な文献を紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、講義でのディスカッション参加の度合、レポート (小論文)、単位認定試験の結果によって決められる。 2. 院生としての基準に満たない論文は、基準を満たすまで書き直しが求められる。 (評価点) 発表 70%、レポート 30% 		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者福祉政策と高齢者を取り巻く環境について、自分独自の思考枠組みを模索すること。 2. 国際的視野のもとで比較分析ができるように努める。 3. 高齢者に関連する理論と実践を結びつけて学習すること。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1～5. テーマ	少子高齢社会の社会階層と結婚、性別役割分業、		
	<p>【学習の目標】 少子高齢社会の社会階層と結婚、性別役割分業についてレビューし、本研究のオリジナリティーと問題点を発見する。 【学習の内容】 1. 社会階層と性別役割分業の概念の妥当性について議論する。 2. ジェンダーと社会階層の問題とは何かについて検討する。 3. 未婚化・晩婚化の関連要因と問題点を発見する。 4. 社会階層とジェンダーに関する研究の実態と課題を明らかにする。 【キーワード】 少子高齢社会、社会階層、ジェンダー、結婚、性別役割分業 【学習の課題】 学習の内容の 1～4 について、オリジナリティーと問題点を発見しながらそれぞれの内容について研究を深める。 【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書・参考書 【学習する上での留意点】 少子高齢社会が及ぼす影響に注目しながら整理することが重要である。</p>		
6～10. テーマ	少子高齢化の中の成人未婚子、世代間支援、社会経済的格差、少子高齢社会の味方		
	【学習の目標】 少子高齢化の中の成人未婚子、世代間支援と経済的格差についてレビューし、どのような福祉政策が有効であるか検		

	<p>討する。</p> <p>【学習の内容】 1. 老親と同居する成人未婚子の社会格差の現状と援助関係について検討する。 2. 老親と既婚子との相互援助関係の現状と規定因は何かを明らかにする。 3. 高齢者世代と若年者世代の所得の規定因を検討する。 4. 性別による世代間支援のメカニズムを明らかにし、どのような福祉政策が有効であるかを検討する。</p> <p>【キーワード】 成人未婚子、世代間支援、社会経済的格差、老親</p> <p>【学習の課題】 学習の内容の1～4について、規定因と本研究の問題点とは何かを確認しながら研究を深める。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた教科書・参考書</p> <p>【学習する上での留意点】 少子・高齢社会では、どのような社会保障政策が有効であるかを考えることが重要である。</p>
11～15.テーマ	<p>要介護高齢者の看取りケア、インフォーマルケアとフォーマルケアの介護者</p> <p>【学習の目標】 要介護高齢者の看取りケア、インフォーマルケアとフォーマルケアについてレビューし、本研究のオリジナルティと問題点を発見する。</p> <p>【学習の内容】 1. 入所施設と在宅における要介護高齢者の看取りケアの規定要因とは何かを発見する。 2. 重度要介護高齢者が在宅で看取りケアを受けるためには、どのような方策が必要であるか検討する。 3. インフォーマルケアとフォーマルケアについてレビューし、それぞれの研究の意義と問題点を発見し、要介護高齢者に有効なケアとは何かについて議論する。 4. 要介護高齢者の看取りケア、インフォーマルケアとフォーマルケアに関する研究のオリジナルティとそれぞれの研究の問題点について議論する。</p> <p>【キーワード】 要介護高齢者、看取りケア、在宅介護、施設入所、インフォーマルケア、フォーマルケア、家族介護者、介護労働者</p> <p>【学習の課題】 学習の内容の1～4について、先行研究を批判的に検討するように努める。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた教科書・参考書</p> <p>【学習する上での留意点】 高齢者が介護が必要になった時、公的・私的サービスの調整はどのようにするか、看取りケアはどうあるべきかについて考える必要がある。</p>
16～20.テーマ	<p>高齢者の生きがい、抑うつ、転倒、エイジズム、社会関係の非親族の構造</p> <p>【学習の目標】 地域在住高齢者の生きがい、抑うつ、転倒に対する脅威について、レビューし、それぞれの研究の規定因と問題点を発見する。</p> <p>【学習の内容】 1. 高齢者の生きがいについてレビューし、生きがい構造の妥当性と生きがいに関する研究の必要性を検討する。 2. 高齢者の抑うつ、転倒の規定因について検討し、それぞれの先行研究のオリジナルティと問題点について議論する。 3. 高齢期の非親族の構造に関する研究の必要性、本研究の意義と問題点について検討する。 4. エイジズムに関連する研究をレビューし、エイジズム研究の意義と政策に反映させるためには何が必要であるかを議論する。</p> <p>【キーワード】 高齢者、生きがい、抑うつ、転倒、エイジズム、社会関係、非親族</p> <p>【学習の課題】 学習の内容の1～5について、問題点を発見しながらそれぞれの内容について検討する。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた教科書・参考書</p> <p>【学習する上での留意点】 定年退職後の第2の人生をどのように設計したほうがいいのか、生きがいを維持するためには何が必要であるか等に注目する必要がある。</p>
21～25.テーマ	<p>Changing Demography and Families in Northeast Asia, Parent-Child Proximity, Living with Parent or Parents-in-law,</p> <p>【学習の目標】 Changing Demography and Families in Northeast Asia, Parent-Child Proximity, Living with Parent or Parents-in-law の現状を明らかにし、それぞれに関連する要因を発見する。なお、それらの研究の限界は何かを示す。</p> <p>【学習の内容】 1. Changing Demography and Families in Northeast Asia をレビューする。特に、東北アジアの家族がどのように変化し、どのような問題を抱えているかを示す。 2. Parent-child Proximity and its Determinants をレビューする。特に、親と子どもの Proximity に関する研究が必要な理由、関連要因を示す。 3. Living with parents or parents-in-law in East Asia をレビューする。既婚子の親と義理親の同居の現状、同居の規定要因を示す。</p> <p>【キーワード】 Parents, Parents-in-law, Proximity, Northeast Living with parents</p> <p>【学習の課題】 学習の内容の1～3について、問題点を発見しながらそれぞれの内容について研究を深める。</p> <p>【学習する上での留意点】 東アジアにおける家族の変容について多読する必要がある。</p>
26～30.テーマ	<p>Family Contacts with Parents and Parents-in-law, Pattern of Contact, Financial Supports to Parents and Parents-in-law</p> <p>【学習の目標】 Family Contacts with Parents and Parents-in-law, Pattern of Contact, Financial Supports to Parents and Parents-in-law の現状を明らかにし、それぞれに関連する要因を発見する。なお、それらの研究の限界は何かを示す。</p> <p>【学習の内容】 1. Family Contacts in Korea and Japan from a comparative perspective をレビューする。特に、既婚の子どもの親と義理親との Contacts の規定要因を示す。 2. Pattern of Adult Child-Parents Contact をレビューする。特に、Contact の Pattern を明らかにし、本研究の問題点は何かを示す。 3. Financial Supports to Parents and Parents-in-law をレビューする。特に、日韓中において既婚子の親と義理親への Financial Supports が同じであるかどうかを確認し、Financial Supports の規定要因を示す。なお、本研究の課題とは何かを確認する。</p> <p>【キーワード】 Contacts, Parents, Parents-in-law, Pattern of Contact, Financial Supports</p> <p>【学習の課題】 学習の内容の1～3について、問題点を発見しながらそれぞれの内容について研究を深める。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた教科書・参考書</p> <p>【学習する上での留意点】 家族を取り巻く環境が変容する中で、成人子の親と義理親へのサポートは、どうあるべきかについて先行研究を多読する必要がある。</p>

1. 科目名 (単位数)	国際福祉特殊講義 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP7207
2. 授業担当教員	洪 金子		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、セミナー	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件なし		
7. 講義概要	<p>比較とは、多文化との相違を発見し、理解することであるが、それを基礎に異質性の認識と受容へと導かれるのである。比較には、相違性と相似性を明らかにするための批判、評価を伴うため、異質性への信頼が必要になる。ところが、国際比較の困難性は、同一基準が設定できなく、他国に対する印象、実感という情緒的感情面を含めて基準が多様であるからである。この国際比較の多様性のため、比較の観点が量的な観点から、生活構造、文化、歴史、宗教、価値観という質的側面が重視されるのである。</p> <p>ここで、本講義では日本をはじめ、ドイツ・イギリス・アメリカ・韓国の 5 カ国における社会福祉の実態や現状や問題点や実践活動について国際比較・分析・考察・研究する方法について探求する。</p> <p>具体的には、対象者別(児童・自閉症児・知的障害児・認知症高齢者・退職した健康な高齢者・精神障害者・依存症者・ひとり親・等)、問題別(医療・虐待・貧困・差別・DV・不登校・保育・失業と就労・校内暴力やいじめ等)、制度・政策別(介護保険制度・生活保護制度・公的扶助・医療保険制度)、分野別(医療ソーシャルワーク・司法ソーシャルワーク・学校ソーシャルワーク等)に分けて、それぞれのトピックスをとりあげて、世界の福祉政策と福祉実践について比較しながら分析・考察する。</p>		
8. 学習目標	<p>① 福祉に関する国際的視点と同時にその視点の客観化を通して各国の状況に対する新たな事実や知見を発見する。</p> <p>② 社会や文化や時代を超えた共通の特性と固有の特性とを弁別して両者が分析できる。</p> <p>③ 異なる国を比較しながら分析・研究するとき、妥当性・信頼性ある調査研究の方法論を探求する。</p> <p>④ 現代において世界的に共通の社会問題や家族問題を取り上げ、社会福祉援助技術を含んだ対人サービスの方法について探求する。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>1. 高齢者対象の介護政策や制度の特徴と方法(世界 3 カ国以上)を比較・分析する。</p> <p>2. 各国の社会保障制度や政策(世界 3 カ国以上)を比較・分析する。 (1 と 2 番課題の比較・分析の枠組み: ①各国の社会的背景 ②課題の内容 ③3 カ国の共通点 ④3 カ国の相違点 ⑤比較・分析を通して学んだ点と本人の意見)</p> <p>3. DV 問題を取り上げ、(世界 3 カ国以上)比較・分析する。</p> <p>4. いじめ問題を取り上げ(世界 3 カ国以上)比較・分析する。 (3 と 4 番課題の比較・分析の枠組み: ①その問題の社会的背景と現況 ②国レベルの政策的なアプローチ ③具体的な処遇プログラム(社会福祉援助方法あるいは臨床的なことを中心とする) ④比較・分析を通して学んだ点と本人の意見)</p> <p>これら 4 つの課題の中、2 つの課題を選択し、提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。</p> <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③、イギリス④、日本⑦、アメリカ⑨』旬報社。 久塚純一・岡沢憲英『世界の福祉』早稲田大学出版部。 中島恒雄『21世紀の高齢者福祉』ミネルバ書房。 森田洋司『いじめの国際比較』金子書房。 Lyons, Karen(1999): International social work themes and perspectives, Aldersyot, U. Kand Brookfield, Vt. : Ashgate Publishing Goodman, Roger ; White, Gordon, and Kwon, Huck-ju(2000) 、The East Asian, Welfare model : Welfare orientation and the state, London and NY. : Routledge.</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1. 成績の評価は、講義でのディスカッション参加の度合、レポート(小論文)、単位認定試験の結果によって決められる。</p> <p>2. 院生としての基準に満たない論文は、基準を満たすまで書き直しが求められる。 (評価点) A : 100~90、B+ : 89~80、B : 79~70、C : 69~60、F : 59 点以下</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>○ 大学院学則を遵守すること。</p> <p>○ 常に専門的実践家としての知識と力量を育成するため努力すること。</p> <p>○ 学際的・国際的感覚を涵養すること</p>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	1~5. テーマ 比較社会福祉学の視点と方法、社会福祉サービスの比較、社会福祉専門職の国際比較		
	<p>【学習の目標】</p> <p>1. 比較社会福祉研究の歴史的・理論的背景を理解する。比較研究の前提と比較の焦点についてわかる。</p> <p>2. サービス比較の困難性について理解し、サービス比較では、誰を、何をどのように比較するのかについてわかる。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>比較の概念と比較することの意義、比較研究の歴史的・理論的背景、国際比較の困難性、国際比較の基準の多様性、多様な国際比較の観点、サービス比較と比較の対象及び比較の方法などについて調べ、理解する。</p>		

	<p>【キーワード】 比較社会福祉研究、国際比較、相違性、相似性、比較サービス、社会福祉専門職</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際比較の研究には、相違性と相似性を明らかにしながら異質性への受容と信頼が求められるということに対する理解する。 2. 研究の歴史的・理論的背景、比較の視点として福祉に関する国際的視点と相対的視点を持つ。 3. サービス比較の論点の中、政策・制度・对人的援助の投入と算出を中心とする効果・効率性について考える。 <p>【参考文献】 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣。 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 Lyons, Karen(1999) : International social work themes and perspectives, Aldersyot, U. Kand Brookfield, Vt .: Ashgate Publishing</p>
<p>6～10. テーマ</p>	<p>アメリカ・ドイツ・イギリス・韓国・日本の介護保険制度・政策の比較、介護問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較(特に、高齢者を対象とするケアマネジメントを中心に)</p>
	<p>【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ・ドイツ・イギリス・韓国・日本の介護保険制度を学習し、日本の介護保険制度との違いや共通点を比較・分析する。 2. 介護問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。 3. ケアマネジメントシステムとケアプランのような介入方法を比較してみることによって比較・分析の枠組みが立てられる。 <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツの介護保険制度の概要、日本の介護保険制度の概要、そしてそれぞれの特徴と相違点についてわかる。 2. 介護を必要とする認知症高齢者と彼を介護する家族に対してドイツと日本の介入方法がどう違うか、具体的なケースをもって社会福祉援助技術における世界諸国のケアマネジメントシステムと日本のケアマネジメントシステム、各国のケアプランと日本のケアプランを比較・分析してみる。 <p>【キーワード】 介護扶助、介護保険、ケアマネジメント、ケアプラン</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの介護扶助と日本の介護保険の特徴と相違点を分析する。 ・国際福祉制度政策及び援助技術などを比較・分析するときの枠組みを立ててみる。 ・介護問題を持っている認知症高齢者とその家族の中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。 ・理想的なケアマネジメントシステムに対する構造を考える。 ・同じ目的で出来た制度・政策であっても、各国の社会的背景、文化、価値観などによって相違点が出るということを理解する <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社。2002年。 阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣、2000年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉①、②』旬報社。 中央大学経済研究所編『社会保障と生活最低限—国際動向を踏まえて—』中央大学研究双書。</p>
<p>11～15. テーマ</p>	<p>アメリカ・イギリス・韓国・日本の医療保険制度・政策の比較、医療問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較</p>
	<p>【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イギリスにおけるコミュニティケアと国民保健サービス(National Health Service, 以下NHS)システムを理解する。 2. 医療問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。 3. 病院のインタークと介入方法を統合的に考え、自分なりの介入を考えてみる。 <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院患者、退院患者、患者家族という三者を対象の中心として、予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を検討する。 2. 今のイギリスの NHS も日本の医療保険政策も短時間で急に出来上がったものでなく、長い時間と多くの努力をかけて進歩してきたものであるが、時代の要求に応じてさらに改革を重ねていかなければならないということを理解する。 3. 医療サービスを市民の確実な権利として定着させるために、有効なアドボカシー理論に対する知識を深める。 4. 高齢社会に対応するコミュニティケアと保健医療改革、イギリスの NHS 改革、病院トラスト、患者憲章、慢性疾患を持っている患者や家族を援助するには地域社会のもつ資源の発掘、新しい資源の開発と情報の提供、ボランティアの活用などが必要であるため、コミュニティ理論に関する知識を深めることが必要である。 <p>【キーワード】 競争原理の導入、第一線の重視、医療行為の制約、コミュニティケア、保険医療改革、国民保健サービス</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会に対応するための地域・地方自治体の責任・機能の変化、サービスレベルの変化、供給の多元化、利用者の権利擁護などの世界的動きや変化過程を探求する。 ・医療問題を持っている入院患者、退院患者、患者家族の中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。 <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉イギリス④』旬報社。</p>
<p>16～20. テーマ</p>	<p>アメリカ・イギリス・韓国・日本の精神保健制度・政策の比較、精神保健の問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較(特に、依存(中毒)症者に対する援助を中心に)</p>
	<p>【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカと日本の地域社会を基盤とする精神保健制度・政策を比較・分析する。 2. 精神保健問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。 <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカと日本における医療支出の改善・抑制対策

	<p>2. 地域を中心とするメンタルヘルスサービス(CBR)の内容</p> <p>3. アメリカの精神保健制度、特に統合失調症とホモセックス政策が成功した根本的な理由は何かを探求し、それに関し日本ではどのようなアプローチが可能であるかを発展的に考える。</p> <p>4. 精神的疾患を持つ入院患者、退院患者、患者家族に予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を対象者別に検討する。</p> <p>5. 精神疾患を持っている患者や家族を援助するには地域社会のもつ資源の発掘、新しい資源の開発と情報の提供、ボランティアの活用以外に、地域住民の理解と協力がとても重要であるため、生態システム理論やネットワーキングなどに関する知識を深める必要がある。</p> <p>【キーワード】 Mental Health, CBR, 精神疾患、依存症、共依存(Co-Dependency)</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカと日本の国や地方自治体レベルの精神保健制度・政策のシステムとその内容において相違点と共通点を探求する。 ・精神的疾患を持つ入院患者、退院患者、患者家族の中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。 <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アメリカ⑨』旬報社。 斎藤学『嗜癖する社会』誠心書房。</p>
21～25. テーマ	アメリカ・イギリス・韓国・日本の生活保護制度・政策の比較、生計問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較（特に、ホームレスに対する援助を中心に）
	<p>【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国と日本の国民基礎生活保障制度を比較・分析する。 2. 生計問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。 <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国民基礎生活保障制度の需給資格と給与内容、死角地帯にいる貧困者のための安全網の確保、自活支援事業 2. 豊かな国であっても、ホームレスが存在する根本的な原因が何かを探求する。 3. 不況でリストラされた親とその家族の予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を対象者別に検討する。 4. ホームレスと生計問題を持っている家族を援助するのに有効な貧困理論に関する知識を深める。 <p>【キーワード】 国民基礎生活保障制度、安全網、自活支援、ホームレス、コットンネ、相互援助、自立</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国の国民基礎生活保障法と日本の生活保護法の内容を比較・分析する作業を通して、生活保障政策における両国の特徴を理解する。 ・ホームレスに予想される問題を想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。 <p>【参考文献】 仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。 仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③』旬報社。 洪金子『韓国の社会福祉発達史』蜷雪出版社。 Goodman, Roger(2000); White, Gordon, and Kwon, Huck-ju(eds.)(1998), The East Asian Welfare model: Welfare orientalism and the state, London and N. Y.: Routledge.</p>
26～30. テーマ	アメリカ・ドイツ・中国・韓国・日本の保育制度・政策やいじめ対策の比較、一人っ子政策と保育政策、いじめの問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較(特に、いじめに対する援助を中心に)、児童虐待問題あるいはDV問題を持つ対象者に対する介入方法と援助技術の国際比較
	<p>【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国の一人っ子政策と日本の保育政策とを比較・分析する。 2. いじめ問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。 3. 児童虐待問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する。 4. DV問題を持っている対象者への海外の介入方法と援助技術を探求する <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一人っ子問題、一人っ子の保育サービスで重点を置くべき点、いじめという問題行動、いじめの性格、社会と人間関係への影響、各国の教育制度との関係、いじめ問題と対策としてのスクールソーシャルワークを理解する 2. いじめの加害者や被害者、その家族と社会に予想される問題、介入方法と社会福祉援助技術を対象者別に検討する。 3. 中国の一人っ子政策の背景を理解すると同時に、どんなにいい目的と目標を持って立てた政策であっても、その利点もあれば、ディアドバンテージもあるということをおおまかじめ予想しながら政策を作らなければならないことに留意する。 4. いじめ問題を持っている生徒や家族を援助するのに有効な社会福祉援助技術のスクールソーシャルワーク理論に関する知識を深める。 5. 虐待の概念、原因、その影響、虐待理論、愛着障害、トラウマ、対処方法などを学習・研究する。 6. DV概念・原因・本人と子どもへの影響・DV被害者、DV加害者、DV法律と司法システム、DV予防・防止のためのプロトコルなどに対する知識と処遇方法 7. 虐待問題を理解し、その問題を持っている人とサバイバー、そして家族を援助するのに有効な、愛着理論やトラウマに関する知識を深める。 8. DV問題を理解し、DVの被害者と加害者そして彼らの子どもを援助するのに有効な家族療法に関する知識を深める。 <p>【キーワード】 一人っ子、保育サービス、いじめ、加害者と被害者、スクールソーシャルワーク、いじめ、加害者のシステム、被害者のシステム、虐待、ネグレクト、サバイバー、愛着障害、トラウマ、DV (Domestic Violence)、DV被害者、DV加害者、DV法律、DV予防・防止のためのプロトコル</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の一人っ子政策に比べ、日本の少子化の根本的な原因を探求し、自分が少子化を止める政策を作るとすれば、どんなこと

が出来るであろうかと具体的に考えてみる。

- ・いじめ問題を持っている加害者と加害者の家族、被害者と被害者の家族の中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。
- ・児童虐待問題を持っている人とサバイバー、加害者としての親の中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。
- ・DV問題を持っている加害者と被害者そして彼らの子どもの中で、対象者別に予想される問題を一つ想定し、それに対する自分の専門的介入方法と社会福祉援助技術を考えてみる。

【参考文献】

仲村優一、安部志郎、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉』旬報社、2002年。

仲村優一、一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉アジア③』旬報社。

洪金子『韓国の社会福祉発達史』蛍雪出版社。

Goodman, Roger(2000); White, Gordon, and Kwon, Huck-ju(eds.)(1998), The East Asian Welfare model: Welfare orientalism and the state, London and N. Y.: Routledge.

森田洋司『いじめの国際比較』金子書房。

洪金子『生徒間暴力に対するスクールソーシャルワークの機能と介入方法－生態システム的アプローチを中心に』

日本女子大学社会福祉学科学会誌、2003年。

阿部志郎・井岡勉『社会福祉の国際比較』有斐閣、2000年。

鈴木研一『世界の女性と暴力』明石書店。

洪金子、関口恵美、大橋利雄『DVに対する警察の対処に関する研究』日米高齢者保健福祉学会、2006年。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉援助技術論特殊講義 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP7202
2. 授業担当教員	洪 金子		
4. 授業形態	講義、討論、事例研究	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉援助技術の歴史的展開に即しながら、その理論動向を十分に把握しつつ、近年の動きであるシステム論、エコロジー論、エンパワメント論、ソーシャルサポートネットワーク論等について講述すると共に、臨床社会福祉研究についての研究法を演習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉専門職の特質を世界的視野から分析を試みる。 2) 日本と米国の社会福祉専門職の特質の比較分析・検証を行う。(米国以外でもよい) 3) 主要援助技術(精神分析論、交流分析論)の理論・技術構成(前提、主要概念等)を理解する。 4) 主要援助技術(認知理論、行動理論)論の発生源、及び歴史的発展の理解をする。 5) 主要援助技術(システム論、エコロジー論)の理論・技術構成(前提、主要概念等)を理解する 6) 主要援助技術(エンパワメント論、ソーシャル・サポート・ネットワーク論)と組織(機関・施設)との関係を理解する。 7) Post-Modern 社会福祉援助技術の発展(ナラティブ理論など)の特徴と概論、これからの援助技術の発展の方向性と必要性を探索する。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 春学期、秋学期ともに2回クラスで発表を行い、討論をすすめる。 2) 査読付専門誌に掲載できるレベルの論文を各学期に1本ずつ書く。 3) 研究分野をしばり、文部科学省科学研究費の申請書を準備し、実際に申請する。(締切り日: 11月2週目の授業日) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子「社会福祉実践の新潮流: エコロジカル・システム・アプローチ」ミネルヴァ書房、1998 平山尚、武田丈「人間行動と社会環境: 社会福祉実践の基礎科学」ミネルヴァ書房、2000 洪金子他「社会福祉援助論」ナナム家、2011 洪金子他「社会福祉援助技術論」同仁出版社、2006 洪金子他「人間の行動と社会環境」高憲出版社、2000</p> <p>【参考文献】 Sheafor, B. W., Horejsi, C. R., & Horejsi, G. A. (2003). Techniques and Guidelines for Social Work Practice. New York: Allyn & Bacon. Albert R. Roberts, Gilbert J. Greene(eds.), Social Workers' Desk Reference, Oxford University Press, 2002. Marlene E. Turner (Ed.)Groups at Work, Theory and Research, Lawrence Erlbaum Associates,1999. R.L. Edwards (Ed.-in-chief), Encyclopedia of Social Work, (19th ed.), NASW, 1995.</p> <p>主な英文社会福祉専門誌 Administration in Social Work、British Journal of Social Work、Child Welfare、Community Development Journal、Health & Social Work、Journal of Community Practice、Journal of Social Work Education、Journal of Sociology and Social Work、Public Administration Review、Small Group Research、Social Service Review、Social Work with Groups、Journal of Social Service Research、Social Work、Social Work Research</p> <p>その他必要に応じて示唆をする。</p>		
11. 成績評価の方法	クラスでの発表 30% 論文 70%		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学院学則を遵守すること。 ○ 常に専門的実践家としての知識と力量を育成するため努力すること。 ○ 社会福祉援助技術実践者としての自分に合う社会福祉援助技術理論を確保すること 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1～2 テーマ	社会福祉専門職の特質を世界的視野から分析を試みる。 日本と米国の社会福祉専門職の特質の比較分析・検証を行う。(米国以外でもよい)		
	【学習の目標】 1. 社会福祉の専門性と社会福祉士の専門職者としてのアイデンティティを確認する。 2. 日本と米国など外国の社会福祉専門職の特質を比較する 【学習の内容】 1. 社会福祉の専門性と社会福祉士の専門職者としてのアイデンティティを高める。 2. 各国の社会福祉の共通性と相違性について把握する 【キーワード】 専門性、アイデンティティ、各国の社会福祉の比較 【学習と研究の課題】 日本と米国など外国の社会福祉が社会的環境と時代的背景によってその発展過程と特質が異なることが分かる		
3～4 テーマ	精神分析論、交流分析論の理論・技術構成(前提、主要概念等)を理解する		
	【学習の目標】 精神分析論、交流分析論の主な概念・理論の前提・主な介入技法などに対する自分なりの見解と評価ができる 【学習の内容】 1. 精神分析論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する		

	<p>(人間の精神の構成、性格の構造、性格の発達段階、不安、防御規制、転移の分析)</p> <p>2. 交流分析論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する (自我の構造、交流とその週類、ストローク、人生態度と人生脚本、時間の構造化)</p> <p>【キーワード】 Id・Ego・Super-Ego、子ども・成人・親の自我状態</p> <p>【学習と研究の課題】 医療モデルとしての長所と短所をはっきり見極めて、社会福祉実践に有効に生かせるようにすること</p>
5～6 テーマ	精神分析論の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】 1. 精神分析論の実践技術とケースへの適用ができる 2. 精神分析論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】 学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。</p>
7～8 テーマ	交流分析論の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】 1. 交流分析論の実践技術とケースへの適用ができる 2. 交流分析論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】 学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。</p>
9～10 テーマ	認知理論、行動理論(認知行動論)の発生源、及び歴史的発展の理解をする
	<p>【学習の目標】 認知理論、行動理論(認知行動論)の主な概念・理論の前提・主な介入技法などに対する自分なりの見解と評価ができる</p> <p>【学習の内容】 1. 認知理論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する (Bandura の自己効力感、Beck の認知論、RET)</p> <p>2. 行動理論(認知行動論)の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する (社会学習理論、条件反射、刺激-反応、操作的条件化、強化 Reinforcement、消去、統制、報酬 Reward と懲罰 Punishment、トークンエコノミー Token Economy、系統的脱感)</p> <p>【キーワード】 認知の再構成、自己主張訓練、社会技術訓練、改題の割り当て、漸進的弛緩法、系統的脱感作法、嫌悪技法</p> <p>【学習と研究の課題】 認知的行動療法を受けたクライアントの方が、そうでないクライアントより楽に過ぎて効果的であるという統計的結果は多い。ところが、他の心理療法(特に、長期的精神力学療法)の介入効果が臨床的にほとんど研究されていないためであるということを感じる。</p>
11～12 テーマ	認知理論の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】 1. 認知理論の実践技術とケースへの適用ができる 2. 認知理論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】 学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。</p>
13～14 テーマ	行動理論の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】 1. 行動理論の実践技術とケースへの適用ができる 2. 行動理論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】 学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。</p>
15～16 テーマ	システム論、エコロジー論(生態システム論)の理論・技術構成(前提、主要概念等)を理解する
	<p>【学習の目標】 システム論、エコロジー論(生態システム論)の主な概念・理論の前提・主な介入技法などに対する自分なりの見解と評価ができる</p> <p>【学習の内容】 1. システム論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する (社会システム理論、統合的理論を提唱した A. ピンカスと A. ミナハン(1973)の「ソーシャルワーク実践における四つの基本システム」、PIE(Person-In-Environment)、エコロジー論(生態システム論)の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する(T. パーソンスの生態理論、ギターマンとかジャマイカの生活モデル、)</p> <p>【キーワード】 システムの構造・機能・行動、境界、開放と閉鎖的システム、Synergy、Input-Output-Through Put など、人間・環境の適応(望ましい・最小限に適当・不適當の3段階)、生活ストレス、ストレス、適応・対処能力、自己能力、自尊心、自発性など</p> <p>【学習と研究の課題】 単線的・循環的因果関係の在り方とその代表理論そして、実践への適用における長所と短所が比較できる。人間と環境(物理的・社会的環境)との交互作用に関する観点を保つこと。アセスメントの技法として Genogram と Eco-Map が自由に活用できる</p>
17～18 テーマ	システム論の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】 1. システム論の実践技術とケースへの適用ができる 2. システム論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】 学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。</p>
19～20 テーマ	エコロジー論の実践技術とケースへの適用・事例分析
	<p>【学習の目標】 1. エコロジー論の実践技術とケースへの適用ができる 2. エコロジー論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】 学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。</p>
21～22 テーマ	エンパワメント論、ソーシャル・サポート・ネットワーク論と組織(機関・施設)との関係を理解する。
	<p>【学習の目標】 エンパワメント論、ソーシャル・サポート・ネットワーク論の主な概念・理論の前提・主な介入技法などに対する自分なりの見解と評価ができる</p> <p>【学習の内容】 1. エンパワメント論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する (Solomon, GutierrezのEmpowerment、Stigma、ストレングスマodel、パートナーシップ、資源の開発と活用)</p> <p>2. ソーシャル・サポート・ネットワーク論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する</p>

<p>(ウィタカー (Whittaker, J.K.) とガルバリーノ (Garbarino, J.) のソーシャル・サポート・ネットワーク、ソーシャル・サポート (社会生活上の支援) とソーシャル・ネットワーク (社会関係)、「支え (nurturance)」パターンの促進、支援の提供、相互的な関係)</p> <p>【キーワード】自己効能感、集団意識、We-ness と共感の形成、クライアントを自分の問題解決の主体者として認識する、変化に対する自己の責任意識自然発生的サポートシステム、セルフヘルプグループのようなサポートシステム、社会制度によるサポートシステム、個人ネットワーク法、ボランティア連結法、相互援助ネットワーク法、近隣地区援助者法、地域活性化法、ネットワーク介入、ケースマネジメント、システム開発</p> <p>【学習と研究の課題】エンパワメント論のソーシャルワーカーの役割について明確にする (クライアントの問題解決を支援する同僚、協力者でありながら、行政機関、裁判所などの高圧的社会制度の否定的影響力を減少させるためクライアントのために活動する)</p>	
23～24	<p>テーマ エンパワメント論の実践技術とケースへの適用・事例分析</p> <p>【学習の目標】 1. エンパワメント論の実践技術とケースへの適用ができる 2. エンパワメント論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】 学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。</p>
25～26	<p>テーマ ソーシャル・サポート・ネットワーク論の実践技術とケースへの適用・事例分析</p> <p>【学習の目標】 1. ソーシャル・サポート・ネットワーク論の実践技術とケースへの適用ができる 2. ソーシャル・サポート・ネットワーク論に基づいた事例分析ができる</p> <p>【学習の内容】 学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。</p>
27～28	<p>テーマ Post-Modern 社会福祉援助技術の発展(ナラティブ理論など)の特徴と概論、これからの援助技術の発展の方向性と必要性を探索する。</p> <p>【学習の目標】 Post-Modern 社会福祉援助論の主な概念・理論の前提・主な介入技法などに対する自分なりの見解と評価ができる</p> <p>【学習の内容】 Post-Modern 社会福祉援助技術の発展(ナラティブ理論など)の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて探求する(社会的構成主義、ナラティブ・セラピー、Inner state、Strength Model)</p> <p>【キーワード】 ディスコース アナリシス、支配的 (dominant) ディスコースと周縁的ディスコース、貧弱なストーリーと豊富なストーリー、内在化と外在化、リフレクティング・チーム (Outsider Witness Group) 再著述(Re-authoring)、Strength and Weakness</p> <p>【学習と研究の課題】 周辺にやられたクライアントの貧弱なストーリーをより豊か (Thicker, Richer) に変える援助技術を身に付ける。</p>
29～30	<p>テーマ Post-Modern 社会福祉援助技術の発展(ナラティブ理論など)の実践技術とケースへの適用・事例分析</p> <p>【学習の目標】 Post-Modern 社会福祉援助技術の発展(ナラティブ理論など)の実践技術とケースへの適用ができる</p> <p>【学習の内容】 学生が提示した事例を分析しながら理論の社会福祉実践への適用と援助技法への理解を深めていく。</p>

1. 科目名 (単位数)	社会福祉政策特殊講義 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP7203
2. 授業担当教員	丸尾 直美		
4. 授業形態	講義と討論	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会福祉政策の歴史、理論、実際 (欧米及び日本)。問題点と改革の方向。今回は実際の政策に関しては、とくに北欧とイギリスの社会福祉政策について詳しく説明する。春季では社会福祉政策の歴史と理論的な枠組みを述べる。秋期では北欧特にスウェーデンの社会福祉政策の歴史的発展と近年の動向について詳しく述べ、日本の社会福祉政策で参考にすべき点、日本の社会福祉政策の問題点、課題を明らかにする。</p> <p>○HP を用いて講義する。北欧やイギリスには何十回も行って福祉政策を見てきているので、現地の福祉施設などをHP で写真で示してどのような介護等が行われているかを目で見れるようにする。インターネットでの質疑に応ずる。</p>		
8. 学習目標	<p>社会福祉政策の歴史、理論、実際を日本だけでなく、社会福祉の最先進国のスウェーデンやイギリスの実際と対比しながら講義し、日本がこれらの国からどのように影響されたかがわかるように、そして日本では同社会福祉政策を改革すべきかを詳しく講義する。</p> <p>その歴史的発展がどのような理念からどのように発展したかを知ることが社会福祉政策の理念、目的、政策手段を体系的に理解する上で重要である。社会政策は当初、イギリスやドイツが先駆国であったが、1960年代から、スウェーデンが最も先駆的な社会福祉政策を導入して、世界を先導してきた。大学院ではスウェーデンにおける社会福祉政策の発展をたどりながら、社会福祉政策の最先端の動向をも説明し、その長所、問題点、解決の方向などを紹介する。勿論、その都度、日本の社会福祉政策との比較や関連を説明して日本の社会福祉政策は以下にあるべきかを考える。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポートと試験を行う。広義の度に大いに質疑と討論を活発に行うことによって自ずと実力がつくようになる。講義での討論も評価に含む。あらかじめ半年分の講義内容をHP に入れておき、配布するので、見ておいてもらい、その問題について講義し、議論し勉強してもらおう。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【参考文献】私が最近書いた社会福祉政策関係の本と論文を主に用いる。丸尾直美著『どうなる？どうする？年金と福祉』エイドリバー出版事業部、レグランド塚口俊子編『スウェーデン・モデルは有効か』(ノルディック出版)の主に丸尾執筆部分。丸尾直美・三橋・広野・矢口・落合著『Eco シティ』中央経済出版社(2012年)。(教科書)丸尾他編の社会福祉養成講座『社会保障論』中央法規を用いるが、講義の対象部分をコピーして配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>成績評価は試験、レポートと授業中での討論などを参考として行う。試験の点数を最重視する。成績の配分は試験 50%、レポート 25%、討議 25%をめどとする。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>講義とオフィスアワーで自分なりの社会福祉観を持てるように、日本の社会政策特に社会福祉はどこが問題でどうすればよいのかを論ずることができるようになってください。</p>		
13. オフィスアワー	<p>学部で講義がある日も大学院で講義がある日も講義後はオフィスアワーです。特に用事のある人は講義の予約してください。オフィスアワーに来れない方はインターネットで質問を受け付けます。インターネットで議論しましょう。</p>		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	社会福祉政策とは。社会科学の方法論		
2. テーマ	社会福祉政策の始まり、イギリスの救貧法と社会政策、ドイツのビスマルク時代の社会政策——選別主義から普遍主義へ——		
3. テーマ	スウェーデンの社会福祉政策の発展——普遍主義の時代からノーマライゼーションの時代——		
4. テーマ	スウェーデンの社会福祉政策の発展と日本への影響——年金制度の日本への影響——		
5. テーマ	スウェーデンの高齢者福祉サービスの日本への影響——中間施設論、複合施設論、ノーマライゼーション論などの影響——		
6. テーマ	スウェーデンの医療保障と高齢者福祉サービスのその後の発展と課題		
7. テーマ	スウェーデンの出生率と女性就業		
8. テーマ	討論会：日本の社会福祉政策のどこが問題か？どこを改革すべきか？		
9. テーマ	福祉社会と経済財政——社会保障の負担は経済と財政を損なうか？——		
10. テーマ	スウェーデンの社会保障と積極的労働市場政策		

11. テーマ	社会保障と持続可能な社会保障財政
12. テーマ	社会保障と世代間公正：若い世代は損をしているか——コトリコフ基準とマスグレーブ＝エスピン・アンデルセン基準-----
13. テーマ	北欧の社会福祉政策から日本が学ぶべき点…スウェーデンの社会福祉政策の問題と課題…
14. テーマ	今後、社会福祉政策と福祉国家はどうか？
15. テーマ	総括：討論会
16. テーマ	経済体制と福祉国家
17. テーマ	社会福祉政策と福祉国家：三つの福祉国家
18. テーマ	ポリシー・ミックスと福祉ミックスの考え
19. テーマ	経済社会体制としての福祉国家
20. テーマ	市場と計画
21. テーマ	インフォーマル部門とボランティア
22. テーマ	討論会：福祉社会はいかにあるべきか
23. テーマ	日本型福祉社会論
24. テーマ	日本の年金制度の特徴と問題点と課題
25. テーマ	日本の医療保障の特徴と問題点と課題
26. テーマ	日本の高齢者福祉サービスと問題点と課題
27. テーマ	日本の保育制度の問題点と女性就業k
28. テーマ	女性就業と出生率改善は両立するか：出生率の U 字型趨勢変動と両立支援政策
29. テーマ	日本の社会福祉政策は財政的に持続可能か
30. テーマ	福祉社会実現のために

1. 科目名 (単位数)	上級社会福祉研究法 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP7208
2. 授業担当教員	金 貞任、植地 正文、洪 金子、花村 誠一		
4. 授業形態	演習形式	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉博士論文とは、世界中でまだ自分以外に誰も知らない、気づかない、分かっていないなど社会福祉の現状・事実を発見し、それを分析し、それを世界中の人々に伝えるために執筆するものである。論文はレポートに似た作業で作成されるが、理論の応用と結論の独自性などが重要である。この講義では、博士論文を作成するために必要な研究方法を学習することを目的とする。そのためには、上級論文の書き方、学研究テーマに適切な社会福祉理論、ソーシャルワークにおける事例研究の方法、精神分析、事例分析の KJ 法、グラウンデッド・セオリーなどを学習し、博士論文の執筆の完成を目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上級論文の書き方の理解 2. 社会福祉に関連する理論の学習と応用 3. 先行研究の批判的検討と問題点を抽出し、仮説を作成する能力 4. 応用科学としての社会福祉専門職の理解 5. 量的研究法と質的研究法の長所と短所の理解 6. 博士論文の執筆と批判的考察 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回提示された本や論文をレビューすること、論文の作成と効果的プレゼンテーション方法		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 担当教員が毎回授業で本や論文などを提示</p> <p>【参考書】 ・平山尚、武田丈、呉裁喜、藤井美和、李政行『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、2003 年。 ・平山尚、武田丈、藤井美和『ソーシャルワーク実践の評価方法：シングル・システム・デザインによる理論と技術』中央法規、2002 年。 ・アメリカ心理学会 (APA). Publication Manual of the American Psychological Association (『第 2 版論文作成マニュアル』), 医学書院、2011 年。 ・Henry E. Brady and David Collier, eds. 2009. Diverse Tools, Shared Standards(『社会科学の方法論争』) 勁草書房 ・高坂健次など『講座社会学 理論と方法』東京大学出版会、1998 年。 ・森山和夫『社会学的方法的立場』東京大学出版会、2013 年。 ・斎藤嘉孝、『社会福祉調査－企画・実施の基礎知識とコツ』新曜社、2010 年。 : pp.170-178 - Informed consent と個人情報法 ・川喜田二郎『発想法』中公新書、1967 年。 ・Martin Bloom, Joel Fischer, & John Orme, 1999 Evaluating Practice, Guidelines for the Accountable Professional, Boston: Allyn & Bacon. ・Dean Hepworth, Ronald Rooney, & Jo Ann Larsen, 1997 Direct Social Work Practice: Theory and Skills, Pacific Grove, CA: Brooks/Cole ・Tony Tripodi (1994). A Primer on Single-Subject Design for Clinical Social Workers. Washington D.C.: NASW Press.</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、本や論文のレビューと発表、論文の発表によって決める。 2. 博士課程の基準に満たさない論文は、基準に達するまで書き直しが求められる。 <p>評価基準 小論文 1 : 20% 発表・授業中課題 : 80%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	本大学院は、将来の日本の社会福祉専門職の教員や指導者を養成することを目指している。本学の博士論文の基準は、学会雑誌に出版する必要があり、なおかつ、世界的視野からみても上級レベルが求められている。研究法の習得は、福祉専門職の知識と技術の発展に欠かすことができない分野である。全力を尽くし、学習に専念することが求められる。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1～2. テーマ	論文の作成、論文の構成と内容について (金)		
【学習の目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・論文の種類には、どのようなものがあり、どのような論文を記述したいかを議論する。 ・論文の作成は、どのようにすれば効果的であるか探求する。 ・論文の構成と論文の内容を効果的に示す方法を議論する。 		
【学習の内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・論文の種類について学習する。 ・論文発表の倫理基準、科学的知識の正確さ、引用文献を表記する理由について探求する。 ・論文を構成するセクションと内容を学習する。 		
【キーワード】	論文の種類、科学的知識、論文の構成、引用文献		
【学習の課題】	各自の論文の構成と内容を探索的に探る。		
3～4. テーマ	文書を簡潔・明瞭に書く技術、結果の表示、学術論文の編集のプロセスについて (金)		
【学習の目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・文書を簡潔・明瞭に書く技術、分析結果の記述を学習する。 ・学術論文の編集を効果的にするプロセスは、どのようにすれば効果的であるかを探求する。 		
【学習の内容】	文書を簡潔・明瞭に書く技術を身につける。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 偏見のない文書を表現するための方法を探る。 ・ 分析結果の表示の方法を探求する。 ・ 博士論文の編集のプロセスを探求する。 <p>【キーワード】 文書の簡潔、結果の記述、学術論文、執筆のプロセス</p> <p>【学習の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論文を簡潔、明瞭に記述し、論文を作成する。
5～6. テーマ	理論の応用とプレゼンテーションについて (金)
【学習の目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博士論文を作成する時、理論を用いる重要性を学習する。 ・ 学会での口頭発表・論文審査の時などプレゼンテーションの方法について探求する。
【学習の内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を対象とした論文では、どのような理論が用いられているかを探る。 ・ 論文の作成の時、理論を用いる意義について探求する。 ・ プレゼンテーションのためのパワーポイントの作成について学習する。 ・ プレゼンテーションは、どのようにすれば効果的であるかを議論する。 ・ 論文を発表する。
【キーワード】	理論の応用、博士論文、論文審査、プレゼンテーション
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を対象とした論文では、どのような理論が応用されているかを学習する。 ・ プレゼンテーションの長所と短所について学習する。 ・ パワーポイントの作成の時、気を付けなければならない点について学習する。
7～8. テーマ	理解社会学の理論仮説と弱い合理性の理論 (金)
【学習の目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理解社会学の理論仮説とは何かを学習する。 ・ 弱い合理性の理論とは何かを探求する。 ・ 社会福祉学という学問がどのようにして客観的でありうるかを探る。
【学習の内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウィンチは、理解の概念をどのように捉えているかを理解する。 ・ 仮説的なものとして理解とは何かを探求する。 ・ 意味の主観性と共同性とは何かについて学習する。 ・ 合理性をめぐる社会学と経済学の立場と何かについて吟味する。 ・ 合理性への仮定の批判とは何かを学習する。 ・ 理論の限界とは何かを探求する。
【キーワード】	理解社会学、理論仮説、弱い合理性
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉学という学問がどのようにして客観的であり得るかを調べる。 ・ 博士論文を作成する際、どのような理論が応用可能であるか、弱点をどのようにクリア可能であるかを探求する。
9～10. テーマ	事例研究の実際 (植地)
【学習の目標】	事例研究について解説することができる
【学習の内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会関係に関する事例研究を学ぶ。 ・ 社会構造を用いた事例研究を探求する。
【キーワード】	事例研究、社会関係、社会構造
【学習の課題】	児童福祉の事例の実践を通して学ぶ。
11～12. テーマ	社会福祉領域における量的研究の意義 (植地)
【学習の目標】	量的研究について解説することができる。
【学習の内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的研究の定量化の試みを学ぶ。
【キーワード】	量的研究、社会福祉領域、質的研究の定量化の試み
【学習の課題】	社会福祉領域における質的研究の定量化について述べよ。
13～14. テーマ	疫学研究の実際 (植地)
【学習の目標】	コホート研究について解説し、実践することができる。
【学習の内容】	代表的なコホート研究について学ぶ。
【キーワード】	コホート研究、要因対照研究、分析疫学
【学習の課題】	代表的なコホート研究を1つ選んで、その問題点を説明せよ。
15～16. テーマ	社会福祉実践の評価、または、効果測定とは何であるか、なぜ必要としているのかを修得する。 (洪)
【学習の目標】	専門職として発生してきた実践評価の課題に関して、社会福祉専門職としての歴史的発展段階から分析を加え、科学的実践の意味を解明する。実践評価が必要な理由を解明する。社会福祉実践の評価、効果測定、シングル・システム・デザインとは何か、なぜ必要であるかを学習する。
【学習の内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践評価、または、実践の効果測定の意味、目的とは何かについて学習する。 ・ 実践評価の中で最も科学的程度が高い集団比較実験調査研究法とシングル・システム・デザインとを比較検討する ・ 実践評価と実践の統合化は、いつ、どのような理由で起こったのか、底辺にある理由を学習する。 ・ シングル・システム・デザインの主要要素やについて学習する。
【キーワード】	実践評価、実践の効果測定、個人情報と調査倫理、シングル・システム・デザイン
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団比較実験調査計画法を社会福祉実践に応用した場合に、どのような問題が起こるか。実践面と調査・研究面から吟味する。 ・ シングル・システム・デザインの実践に応用した場合、長所と短所を明確に記述する。

17～19.テーマ	集団比較実験調査計画法の主要概念、ランダム化された治験を学習し、シングル・システム・デザインと比較検討し、類似点と相違点を明確にする。(洪)
【学習の目標】	シングル・システム・デザインの実践への応用の第一歩として、クライアントの提出する問題の特定化と目標の設定が行われる。問題・目標を漠然とした概念から、具体的な概念にするという過程が含まれる。問題の特定化とは、まず、概念の操作定義をすることがあり、次に、測定、または、客観的に観察できることである。実践のインタークの段階をシングル・システム・デザインでは、基礎線（ベースライン）と呼び、アセスメントの結果、選択される介入と区別している。ここでは、実践の過程と評価の過程を比較しながら、効果測定方法の理解が期待される。
【学習の内容】	<ul style="list-style-type: none"> 問題の特定化と目標設定の過程の理解と実行を試みる。 基礎線（ベースライン）と介入の明確な定義と区分について学習する。 概念の操作定義を学習する。 測定とはどのような意味か、客観的観察とはどのような意味があるか学習する。 シングル・システム・デザインを実践に応用する過程を理解し、実践する。
【キーワード】	集団比較実践調査計画法、ランダム、基礎線（ベースライン）、介入、実践過程、概念定義、操作的定義、客観的観察、問題の特定化、目標設定
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> 事例を使用して問題の特定化と目標を具体的に設定する。 実践を基礎線（ベースライン）期間と介入期間に分けて、実践の過程を考察する。 クライアントが提出する問題の特定化について、問題の理解と実行を試みる。 クライアントが提出する問題に関して、漠然とした問題から測定できる問題に記述できる技術を学習する。
20～22.テーマ	質的研究法の KJ 法、SCAT(Steps for Coding and Theorization)法、M-GTA(Modified Grounded Theory Approach)で書かれた論文を読みながら KJ 法、SCAT、M-GTA について学ぶ。(洪)
【学習の目標】	質的研究法の KJ 法・SCAT(Steps for Coding and Theorization)・M-GTA(Modified Grounded Theory Approach)法で記述された論文を読みながら KJ 法、SCAT、M-GTA について探求する。
【学習の内容】	<ul style="list-style-type: none"> 質的研究法とは何か、KJ 法・SCAT(Steps for Coding and Theorization)、M-GTA(Modified Grounded Theory Approach)法の各々の特徴・主な概念、段階あるいはプロセスなどについて学習する。 質的研究法に基づいて書かれた論文を通して、質的研究方法を学ぶ。
【キーワード】	叙述化、図解化、現象の構造化、発話内容の「テキスト」記入、4ステップコーディング、カテゴリーのグルーピング、ストーリー・ライン、理論記述
【学習の課題】	<ul style="list-style-type: none"> ブレインストーミングと KJ 法：多くの意見・アイデアをグループ化し、論理的に整序して問題解決の道筋を明らかにする。 SCAT 法の発話内容の「テキスト」記入、ステップコーディングに関して学習する。 M-GTA 法のカテゴリー・グルーピング、ストーリー・ライン形成に関して学習する。
23～24.テーマ	ストラウスとグラザーによる「グラウンデッド・セオリー・アプローチ」(花村)
【学習の目標】	急速な社会変動によって、これまでの演繹的方法（既存の理論モデルから研究の設問と仮説を導き出し、それらを実証的データと比較し検証する）は、研究対象の多様性に十分に対応できなくなった。それゆえ、質的研究への関心が高まっているが、ここでは、その代表とも言える Grounded Theory Approach をとりあげ、批判的に吟味してみる。
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> シカゴ大学でフィールドワークを学んだ Straus とコロンビア大学で統計の手法を学んだ Glazer がカリフォルニア大学看護学科で一緒になり、この方法に基く『死のアイウエオ理論』という記念碑的名著を結実させた。 この方法がもっとも適合するのは、研究対象とする現象がプロセス的性格（始まり、展開し、終わっていく）をもつヒューマンサービス領域であり、人間と人間とが直接的にやりとりする社会的相互作用を理論化できる。
【キーワード】	作業項目 ：研究テーマ、分析テーマ、分析焦点者、ワークシート（概念生成）、カテゴリーとコアカテゴリー、結果図とストーリーライン、グラウンデッド・セオリーの記述 分析の機能項目 ：継続的比較分析、理論的サンプリング、理論的メモ（ワークシート内）、理論的メモ・ノート、理論的飽和化、理論的センシティブリティ、感受概念(sensitizing concepts)
【学習の課題】	<ol style="list-style-type: none"> この方法にはいくつかのヴァージョンがあり、本邦では木下康仁による（データの切片化をしないで、ワンスポット型の研究に適する）修正版が多く用いられているが、原版に立ち戻って、その核心を把握してみよう。 現象学的・解釈学的アプローチも、質的研究法における有力なもののひとつであり、村上靖彦（大阪大学大学院人間科学研究科教授）は、近年、GTA を批判しつつ、めざましい業績をあげているので一瞥しておく。
【参考文献】	木下康仁著『ライブ講義 M-GTA：実践的質的研究法—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』弘文堂。 木下康仁編著『分野別実践編 グラウンデッド・セオリー・アプローチ』弘文堂。
【学習する上での留意点】	教員はかつて、担当科目のひとつ精神保健福祉特論に木下康仁先生をお招きし、M-GTA についての講義をお願いしたことがある。受講生には、その時に使用されたパワーポイントのハンドアウトのコピーを配布するので、ぜひ役立ててほしい。
25～27.テーマ	フーコーのコレージュ・ド・フランス就任講演「言説の秩序」を読み解く（花村）
【学習の目標】	数ある質的研究法のなかでも最先端のホット・アイテムと言えるのがフーコー派言説分析(Foucauldian Discourse Analysis)であり、社会心理学を皮切りに、すでに社会福祉学への応用も始まっている。その端緒となったフーコーのコレージュ・ド・フランス教授就任講演「言説の秩序」（邦訳あり）を詳細に読み解き、その現代的意義にふれてみる。
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> フーコーの仕事は、狂気、倒錯、刑罰などをめぐって西欧の知の深部を照射するものであったが、ここでは、その哲学的含意にはあまり立ち入らずに、あくまでもひとつの「社会理論」として読んでみることを奨める。 なぜ彼はラング（言語）やパロール（言葉）ではなく、ディスクール（言説）を問題にしたのか、なぜエノンセ（言表）などという難解な用語によってそれを基礎づけたのか、このことを理解することが出発点になる。
【キーワード】	外的な排除のシステム（禁止、狂気、真理）、内的な排除のシステム（注釈、作者、学問）、適用の限定条件（儀式、

	<p>学説、教育)、言説の実在性を省略する哲学的主題と対応する対抗・主題、非物体的なもののマテリアリズム、言説、言表、出来事</p> <p>【学習の課題】 1. 若きフーコーは精神病院のなかで、医者でも患者でもない立場から事態を見据えたのであり、このことが彼をして「狂人の発話」をも排除することなく、しかるべき場所へと位置づけうる言説分析の手法を確立せしめた。</p> <p>2. 本テーマについての学習は、現代の精神保健福祉におけるキーワード「リカバリー」(障害があろうとなかろうと自分の人生を取り戻す)を単なるスローガンに終わらせないためのひとつの努力であると考えられたい。</p> <p>【参考文献】 M. フーコー (慎改康之訳)『言説の領界』(河出文庫)、河出書房新社、2014 年</p> <p>C. ウィリッグ著 (上淵寿ほか訳)『心理学のための質的研究法入門—創造的な探求に向けて』培風館、2003 年</p> <p>【学習する上での留意点】 グローバリゼーションおよび I T 革命の進展によって、われわれの学問の地形は今や一変している。かつて聴衆に眩暈をもたらしたフーコーの斬新な構想は、現代においてこそ、格別のリアリティーを獲得し始めているように思う。</p>
28～30.テーマ	量的でも質的でもない「強度的な研究法」に基く統合失調症の精神病理学 (花村)
	<p>【学習の目標】 DSM の操作的診断基準は、精神科診断の信頼性を飛躍的に高めたが、妥当性については相変わらずの暗中模索状態が続いており、精神保健医療福祉の共通言語は有用性のみにあまじっていると云える。昨年刊行された DSM-5 は、カテゴリーからディメンジョナルな分類へとシフトしつつあり、精神医学が岐路に立たされていることを告げた。</p> <p>【学習の内容】 1. 今は亡きドイツの精神病理学者ミュラー-ブーアは、「精神科医なら誰でも、統合失調症の患者たちのさまざまな陳述から、ある人間の生活の意味を根底から変化させるあの出来事のことを知っている」と述べた。</p> <p>2. 彼によれば、この出来事は「強度的・形相的な印象性質」をもつが、これを経験科学のレベルに落とすことは容易ではなく、ここでは、教員自身の手になる「統合失調症の 9 つの区画」をあげておくにとどめる。</p> <p>【キーワード】 外延量 (長さ、重さ、時間、面積と体積、角度)、内包量 (密度、濃度、勾配、速度、流量)、強度、出来事、感覚、言語、統合失調症、妄想知覚、プレコックス・ゲフェール、感度、特異度、計量的尺度、複雑系の科学、準因果作用子</p> <p>【学習の課題】 1. グラウンデッド・セオリー・アプローチにおける継続的比較分析との決定的な違いは、件の「9 つの区画」の作図が意味の解釈にではなくて、強度の感知に基く比較作業によるものであることに求められる。</p> <p>2. 強度はフーコーの盟友ドゥルーズの哲学のキーワードのひとつであるが、最近、デランダによって分析哲学の用語で「強度的科学」の方向性が素描されており、今後の発展が大いに期待されることである。</p> <p>【参考文献】 Delanda, M.: <i>Intensive Science and Virtual Philosophy</i>. Continuum, London/New York, 2002.</p> <p>杉林稔、濱田伸哉、桑代智子：花村誠一の「9 区画図」を平易な表現に変換する試み。 臨床精神病理 34 : 265-274, 2013.</p> <p>【学習する上での留意点】 本テーマについては、精神医学的事項に深入りすることは避け、あくまでも上級研究法講義として展開することを心がける。受講生の諸君は、ディテールに足をすくわれることなく、全体のアウトラインをしっかりととらえてほしい。</p>

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉論特殊講義 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP7205
2. 授業担当教員	花村 誠一		
4. 授業形態	講義およびディスカッション、精神科病院での実習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>障害者権利条約 (2006 年) 以降の、精神保健福祉の現況にコミットするため、Michel Foucault の諸著作を参照しながら方法的視座を固める。この哲学者については、近年、障害論や福祉国家論の文脈でも多くの論集が編まれている。社会権と自由権の統合モデルが謳われるなかで、彼の生・権力論はますます現代的な意義を獲得した。米国精神医学会の治療ガイドラインを読み解き、コンテンポラリーな問題場面を抽出する。また、教員自身のオリジナルである統合失調症圏の「9 つの区画」にもふれてもらう。これはドイツ語圏精神病理学を背景にしたもので、アングロ・アメリカンの諸研究と対比してほしい。目玉は、ボン大学基底症状評価尺度 (BSABS) による統合失調症のアセスメント (実習) である。教員自身が目下、精力的に取り組んでいる研究課題であるが、実際に評定者として同席してもらう。最終的には、件の「9 つの区画」に即して、ICF のストレングスモデルを研ぎ澄ますことを目指す。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本科目にとって、文書資料を読み解く作業はきわめて重要であり、今日、質的研究法の 1 つに組み入れられた「フーコー派言説分析」(Foucauldian Discourse Analysis) の手法を学ぶ。 2) 5 年後の見直しを経た医療観察法、自立支援法の運用の状況を吟味しながら、「強制入院」のデュー・プロセスや統合失調症の「病名告知」について、根本から考え直してみる。 3) 米国精神医学会治療ガイドラインにおける心理社会的アプローチ、社会復帰に利用できる治療環境、社会資源について、スイス・ベルンのソテリア・プロジェクトと対比しながら検討してみる。 4) 教員自身による理論構想、統合失調症圏の「9 つの区画」について、理解困難なところは極力質問するようにつとめ、この病をもつ人たちの地域リハビリテーション活動に役立ててほしい。 5) 岡田らの ICF に基づく「精神医療実施計画書」を参考にしながら、精神障害の障害特性によりフィットさせるべく、実際の援助実践を導きうるようないくつかの補助概念を創案してみよう。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマ、及び「15 通信教育課程 課題」を参照。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 佐藤光源監訳『米国精神医学会治療ガイドライン・クイックリファレンス』医学書院、東京、2006 年 世界保健機関 (WHO) 刊『ICF：国際生活機能分類—国際障害分類改訂版』中央法規、2002 年</p> <p>【参考文献】 G. ドゥルーズ著 (宇野邦一訳)：フーコー。河出書房新社、東京、1987。 M. フーコー著 (慎改康之訳)：知の考古学(河出文庫)。河出書房新社、東京、2012 年 M. フーコー著 (渡辺守章訳)：性の歴史 I。知への意志。新潮社、東京、1986 年 花村誠一：分裂病の精神病理学とオートポイエシス。河本英夫, L. チオンピ, 花村誠一, W. ブランケンブルク著、複雑系の科学と現代思想『精神医学』, pp173-239, 青土社、東京、1998。 花村誠一、橋本有滋：急性期の環境療法“ソテリア”に関する検討—オートポイエシスの提言。日本社会精神医学会誌 11：255-260, 2002。 花村誠一：ソテリア計画と複雑系の科学—感情論理を超えて。臨床精神医学 32：1215-1225, 2003。 花村誠一：ソテリア・アプローチ。「精神科治療学」第 24 巻増刊号：160-163, 2009。 花村誠一：精神科医療における身体の問題—医療観察法の時代に。日本社会精神医学会誌 18：363-370, 2010。 花村誠一：哲学と精神医学。神庭重信ほか編、専門医のための精神科リュミエール 30『精神医学の思想』, pp258-271, 中山書店、東京、2012。 A. ハント、G. ウィッカム著 (久塚純一監訳)『フーコーと法—統治としての法の社会学に向けて』、早稲田大学出版部、東京、2007 年 広田伊蘇夫著『立法百年史—精神保健・医療・福祉関連法規の立法史』、批評社、東京、2004 年 五十嵐禎人：強制治療が許されるのはなぜか。神庭重信ほか編、専門医のための精神科リュミエール 30『精神医学の思想』, pp191-207, 中山書店、東京、2012。 市野川容孝：生・権力論から見る精神医療の現在—二つの法のはざままで。日本社会精神医学会誌 18：352-356, 2010。 伊藤哲寛：障害者権利条約と精神医療。精神医学 54：125-135, 2012。 L. マーゴリン著 (中川伸俊ほか訳)『ソーシャルワークの社会的構築—優しさの名のもとに』, 明石書房、2003 年 L. R. モシャー、L. ブルチ著 (公衆衛生精神保健研究会訳)『コミュニティ・メンタルヘルス [復刻版]—新しい地域精神保健活動の理論と実際』、中央法規出版、東京、2003 年 岡田幸之ほか：ICF の精神医療への導入。精神医学 49：41-48, 2007。 佐藤光源ほか監訳『米国精神医学会治療ガイドライン・コンベンディウム』、医学書院、東京、2006 年 Gross, G., Huber, G., Klosterkötter, M., Linz, M. : BSABS. Bonn Scale for the Assessment of Basic Symptoms. 1st English Edition. Shaker Verlag, Aachen, 2008. Huber, G., Gross, G.: Basic symptom concept – historical aspects in view of early detection of schizophrenia. Neurology, Psychiatry and Brain Research 5 : 183-190, 1998.</p>		

	<p>Klosterkoetter, J. et. al. : Diagnosing schizophrenia in the initial prodromal phase. Ach. Gen. Psychiatry 25 : 158-164, 2002.</p> <p>Tremain, S. (ed.): Foucault and the Government of Disability. The University of Michigan Press, 2005.</p> <p>Hook, D. : Foucault, Psychology and the Analytics of Power. Palgrave Macmillan, New York, 2010.</p>
11. 成績評価の方法	<p>1. 成績の評価は、講義でのディスカッション参加の度合、レポート（小論文）、単位認定試験の結果によって決められる。</p> <p>2. 院生としての基準に満たない論文は、基準を満たすまで書き直しが求められる。 （評価点） A : 100~90、B+ : 89~80、B : 79~70、C : 69~60、F : 59 点以下</p>
12. 受講生へのメッセージ	<p>Foucault の仕事と精神保健福祉論との遭遇は、けっして奇を衒ったものではない。彼の著作群、『狂気の歴史』『臨床医学の誕生』『言葉と物』『知の考古学』『監獄の誕生』『性の歴史』をひもとけば、これは必然のなりゆきであることがわかるだろう。欧米ではすでに立ち上がったかみ見える「フーコー派ソーシャルワーク」に向けて、本学の院生が第一歩を踏み出してくれることを期待する。新自由主義的な社会再編が進む現下の情勢を分析するのに、彼の生-権力論ほど鋭利に働くメスはないと思われる。</p>
13. オフィスアワー	<p>別途郵送にて通知。</p>
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1~3. テーマ	Foucault を社会理論として読む
<p>【学習の目標】 本科目の開講にあたり、コレージュ・ド・フランスの教授であった Michel Foucault の全仕事を概観してみる。精神保健福祉論の方法的手立てとするには、思い切って、彼の哲学を一種の社会理論として読んでみることをお奨めしたい。</p> <p>【学習の内容】 1) Canguilhem によれば、生物学や医学など、生命にかかわる学問においては、認識の枠組みが歴史的に変遷していく。 2) Foucault の独自性は、こういう着眼を社会規範、つまり人が判断し行為するさいのルールに適用したところにある。 3) これがさらに、社会秩序を造り上げる実践的・政治的な関心や戦略との関係—「権力の問題系」—で考え抜かれる。</p> <p>【キーワード】 有限性の分析論、人間学的眠り、身体、死、非連続性、ディスクール、ディスクール編制、分散、記録資料、エピステーメー、認識論的輪郭、出来事、外部性、歴史、知、限界、人間、他者、実定性、権力-知、主体、侵犯、思考されないもの、真理への意志</p> <p>【学習の課題】 1) Foucault のいう「権力」とは、けっして誰かがもつ「もの」ではなく、人と人の中で働く作用のことである。 2) 70 年代、彼の理論は管理社会論、反精神医学運動、ノーマライゼーションなど福祉国家批判の流れと連携していく。 3) 70 年代終わりに、福祉国家に結びつくのとは別のタイプの、新しい統治形態(ネオリベラリズム)に括目を促した。</p> <p>【参考文献】 A. ハント、G. ウィッカム著（久塚純一監訳）『フーコーと法—統治としての法の社会学に向けて』早稲田大学出版部、2007 年</p>	
4~6. テーマ	フーコー派言説分析の要諦
<p>【学習の目標】 医学における精神医療も、行政における福祉政策も、いわば「抵抗減弱部」(locus minoris resistentiae) に属する。それだけに、Foucault 的な意味で知と権力の絡みが浮上しやすいわけで、彼によって創始された言説分析の威力が倍加されることになる。</p> <p>【学習の内容】 1) なぜ Foucault はラングやパロールではなく、ディスクール(言説)を問題にしたのか。 2) なぜ彼はエノンセ(言表)などという難解な概念によってそれを基礎づけようとしたのか。 3) 言説がなすのは、ものを描写するために記号を使うこと「以上のこと」だからである。</p> <p>【キーワード】 行為、関係、身体、力、他者、監視(パノプティスム)、権力(間接的)、暴力、権力と知、身体の政治的テクノロジー、装置、言説(ディスクール)の編成、言表(エノンセ)の機能、編成システムと規則</p> <p>【学習の課題】 1) 精神保健福祉の変貌のさなか、われわれは Foucault の言う「以上のこと」を見いだすべく努めなければならない。 2) フーコー派言説分析の要は、言説よりもその基礎をなす言表の概念のほうで、これを自家薬籠中のものにすることが難しい。 3) 精神医学を例にとると、ドイツでは「全体」「類型」、英米圏では「基準」「操作」が言表のレベルに相当するものである。</p> <p>【参考文献】 G. ドゥルーズ著(宇野邦一訳)：フーコー。河出書房新社、東京、1987 年。 M. フーコー著(慎改康之訳)：知の考古学(河出文庫)。河出書房新社、東京、2012 年 花村誠一：哲学と精神医学。神庭重信ほか編、専門医のための精神科リュミエール 30『精神医学の思想』, pp258-271, 中山書店、東京、2012 年。 Tremain, S. (ed.): Foucault and the Government of Disability. The University of Michigan Press, 2005. Hook, D. : Foucault, Psychology and the Analytics of Power. Palgrave Macmillan, New York, 2010</p>	
7~9. テーマ	生-権力論からみた精神科医療

	<p>【学習の目標】 後期 Foucault の「生 - 権力」は、私たちの生きる現在を規定し続けている磁場を表現する言葉である。とすれば、援助専門職にとって、これほど勉強がいのあるアイテムに遭遇する機会はないだろう。手ごわいが、ここは踏ん張りどころである。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「死なせるか生きるままにしておくという古い法／権利に代わって、生きさせるか死の中に廃棄するという新たな権力が登場した」。 2) 「古い法／権利」においては、生は「不作為 (laisser)」の結果として、死は「作為(faire)」の結果としてもたらされる。 3) これに対して、「生 - 権力」においては、生は「作為(介入)」の結果として、死は「不作為(不介入)」の結果として現れる。 <p>【キーワード】 規律権力と生-政治、生 - 権力、ネオリベラリズム (新自由主義)、統治性 (governmentality)、ポスト福祉国家型の新たな統治形態、ポスト・フォードイズム、管理社会、治安と保障のトレード・オフ、精神保健福祉法、医療観察法、自立支援法</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療観察法、自立支援法の相次ぐ成立の背景には、日本の社会の新自由主義的な転回があったと考えるべきである。 2) ある人のある状態はその人の責任であり、その人が負担を負うべきもので、他の人には義務も責任もないとされる。 3) 市野川にならって、こういう「不作為の正当化」こそ、生 - 権力の現代的な現象形態であると考えてもよいだろう。 <p>【参考文献】 M.フーコー著 (渡辺守章訳)：性の歴史 I. 知への意志. 新潮社, 東京, 1986 年 花村誠一：精神科医療における身体の問題—医療観察法の時代に. 日本社会精神医学会誌 18 : 363-370, 2010. 市野川孝：生-権力論から見る精神医療の現在—二つの法のはざまで. 日本社会精神医学会誌 18 : 352-356, 2010. 伊藤哲寛：障害者権利条約と精神医療. 精神医学 54 : 125-135, 2012. L.マーゴリン著 (中川伸俊ほか訳)『ソーシャルワークの社会的構築—優しさの名のもとに』, 明石書房, 2003 年</p>
<p>10～12.テーマ</p>	<p>米国精神医学会治療ガイドライン</p>
	<p>【学習の目標】 精神保健福祉領域の援助専門職は、精神疾患ないし精神障害に関する知識を不断にヴァージョンアップし続けなければならない。ここでは、今や全世界のグローバル・スタンダードになった観のある A P A の治療ガイドラインを批判的に検討してみる。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 米国の精神医学は生物学的精神医学を標榜しながらも、心理社会的アプローチとの連携体制を強化している。 2) 北米でめざましい勢いで展開中の包括型地域生活支援プログラム (ACT) が本邦にも波及してすでに久しい。 3) 援助(ケア)でなく治療(キュア)のためのガイドラインであれば当然かもしれないが、薬物療法が中心に置かれている。 4) 新薬の開発ラッシュが続いており、精神科医療全体に、これまでに例のないようなひずみをもたらしている。 <p>【キーワード】 クイックリファレンス目次：せん妄、アルツハイマー病と老年期の認知症、HIV/AIDS 患者の精神医学的ケア、統合失調症、大うつ病性障害、双極性障害、パニック障害、摂食障害、境界性パーソナリティ障害、自殺行動の評価と精神医学的ケア 統合失調症のアウトライン：A. 精神医学的マネジメント (症状評価と診断の確定、治療計画の立案と実施、治療関係の確立と治療アドヒアランスの促進、患者および家族への教育と治療の提供、併存症の治療、患者の社会的な環境と機能への対応、複数の治療者による治療の統合、入念な治療の記録)、B. 急性期、C. 回復期、D. 安定期、E. 治療抵抗性患者のケアにおける特別な問題、F. 欠陥症状の治療、G.治療環境と住宅の選択</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) この種の医学的文書はもとより、近く自立支援法にとって代わる障害者総合福祉法に対しても言説分析を徹底してみよう。 2) グローバリゼーションおよび IT 革命の進展によって、メンタル・ヘルスの全領域に不可逆的な変化が生じつつある。 3) 2013 年に予定されている D S M - 5 の登場によって、精神疾患のディメンショナルな病態把握に拍車がかかるだろう。 4) 統合失調症の軽症化がささやかれ始めて久しいが、これはすなわち多様化でもあり、援助実践はより困難なものになるだろう。 <p>【参考文献】 佐藤光源監訳『米国精神医学会治療ガイドライン・クイックリファレンス』, 医学書院、東京、2006 年 佐藤光源ほか監訳『米国精神医学会治療ガイドライン・コンパニウム』, 医学書院、東京、2006 年</p>
<p>13～15.テーマ</p>	<p>ソテリア・アプローチの概要</p>
	<p>【学習の目標】 急性期の統合失調症患者に対するオルタナティブかつメディカルな治療セッティング「ソテリア・ベルン」について紹介する。統合失調症に対する無投薬ないし低用量による環境療法の実践は、薬物療法全盛の時代、かなり衝撃的なものである。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 統合失調症に対する精神療法ではなく、環境療法 (milieu-therapy) であることがポイントである。 2) Mosher や Ciompi のように、病院でない家屋にソテリアを設立することは偶運にでも恵まれない限り難しい。 3) むしろ、既存の精神科病棟に「ソテリア要素」として導入していくやり方のほうが現実的である。 <p>【キーワード】 Mosher によるソテリア・カリフォルニア、Laing によるキングズレー・ホール(反精神医学)、Ciompi によるソテリア・ベルン、治療的住居共同体、「柔かい部屋」(soft room)、21 世紀の統合失調症治療のための希望を担うペースメーカー・モデル</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 北米の ACT の盛名に隠れてほとんど一顧だにされないが、ソテリアから学べることは決して少なくはない。 2) ソテリア要素を導入することによって、従来薬から新規薬(より弱い)への切り替えがスムーズに行えるだろう。 3) 薬物療法にはたよれない発症前の早期介入プログラムに対して、数多くの技法上のヒントを提供しうだろう。 4) 通常治療に比べて、精神病を人生全体に統合しやすいとすれば、リカヴァリーの誘導戦略として役立つだろう。 <p>【参考文献】</p>

	<p>花村誠一，橋本有滋：急性期の環境療法“ゾテリア”に関する検討—オートポイエーシスの提言。 日本社会精神医学会誌 11：255-260, 2002.</p> <p>花村誠一：ゾテリア計画と複雑系の科学—感情論理を超えて。臨床精神医学 32：1215-1225, 2003.</p> <p>花村誠一：ゾテリア・アプローチ。「精神科治療学」第 24 巻増刊号：160-163. 2009.</p> <p>L. R.モシャール，L.ブルチ著（公衆衛生精神保健研究会訳） 『コミュニティ・メンタルヘルス〔復刻版〕—新しい地域精神保健活動の理論と実際』、中央法規出版、東京、2003 年</p>
16～18.テーマ	統合失調症圏の「9つの区画」
	<p>【学習の目標】 どうすれば統合失調症圏に属する多種多様な精神病像を統一的に把握することができるだろうか。ここで提示される理論構想は、教員自身の手になるものであるが、その難解さにたじろぐことなく、ぜひ教員との間で質疑応答を繰り返してもらいたい。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 多種多様な初発症例の同時追跡から、ドイツ語圏の精神病理学に依拠して、一挙に立ち上げられた構想である。 2) 疾病論的には、構造の変形か、力動の逸脱か、(どちらでもない) 欠損の媒介か、という 3 つの帯域に分かれる。 3) パトス的には、行動の異常か、情態の変化か、(どちらでもない) 両方の共存か、という 3 つの帯域に分かれる。 4) 疾病論的な縦軸とパトス的な横軸を直交させると、統合失調症圏が「9つの区画」として布置的に区別される。 <p>【キーワード】 疾病論的スペクトラム：構造の変形・力動の逸脱・欠損の媒介、パトスのスペクトラム：行動の異常・情態の変化・両方の共存、反転図形、相互隠蔽、「中間の中間」、Maturana と Varela のオートポイエーシス概念、作動上の閉鎖性、構造的カップリング、構成素、アイコンの概念、Luhmann の社会システム論、相互浸透、デカップリング (カップリングの解体)</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 上記の構想は河本英夫とのコラボレーションを介して、第三世代システム・オートポイエーシス理論へと接続された。 2) 精神医学では、心的システム、神経システム、身体システム、社会システムという 4 つのシステムを区切れば足りる。 3) 各区画の疾病の機構は、これらのシステム間のデカップリング (カップリングの解体) の諸相として把握可能になる。 4) 軽症化ないし多様化に対応すべく、諸種の現代的病像を「9つの区画」へとマッピングする作業が急務の課題である。 <p>【参考文献】 花村誠一：分裂病の精神病理学とオートポイエーシス。 河本英夫，L. チオンビ，花村誠一，W. ブランケンブルク著、複雑系の科学と現代思想『精神医学』，pp173-239， 青土社，東京，1998.</p>
19～21.テーマ	Huber 派の基底障害学説について
	<p>【学習の目標】 既述したように、「9つの区画」は精神病像に即して作図されたものである。統合失調症においては、しかし、精神病像が消褪しても困難な問題が立ちはだかる。こういう全体経過を包括しうる理論構想として、Huber 派の基底障害学説に括目する。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基底症状とは、統合失調症の患者が主観的に体験する、病訴としての性格をもつ要素症状である。 2) 完成した精神病像の基底をなし、想定上の身体的基体により近い症状と目される。 3) 病前の前駆症および前哨症候群、また病後の基底段階において高い一致度で現れる。 4) 患者自身によって、欠損として知覚されうるが、周囲の者にはまれにしか気づかれぬ。 <p>【キーワード】 体感症、純粹欠陥、気脳写、基底障害、基底症状、基底段階、前駆症、前哨症候群、残遺状態、一級症状 (first rank symptoms)、移行系列、混合性残遺、習慣階層の喪失、フィルター障害 (過包含)、デコーディング障害 (反応 - 干渉)、過程活動性 (process activity)、中核症状 (core symptoms)、長期経過、リハビリテーション、早期発見・早期介入</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 非特徴的な症状 (段階 1)、幾分か統合失調症に特徴的な症状 (段階 2) に分けられることを理解する。 2) ここから、さらに高度に複合的で典型的な統合失調症の病像 (段階 3) が結実すると理解されたい。 3) Huber らは大規模な実証的研究を展開し、Gross らは「ボン大学基底症状評価尺度」(BSABS) を開発した。 4) 英米圏の尺度に比べ、要素的な体感症(身体感覚の障害)にあたる項目が数多く含まれている。 <p>【参考文献】 Huber, G., Gross, G.: Basic symptom concept – historical aspects in view of early detection of schizophrenia. Neurology, Psychiatry and Brain Research 5：183-190,1998. 附) 邦語文献 花村誠一：基底症状。加藤 敏ほか編『精神医学事典』，弘文堂，東京，2012.</p>
22～24.テーマ	ボン大学基底症状評価尺度の実習
	<p>【学習の目標】 このテーマについては、精神科の入院患者を対象に、教員との同席面接を介して評価を行ってもらおう。統合失調症の基礎的な症状をとり出すための実に鋭敏なインストルメントであり、この病をもつ人になぜソーシャルワークが必要なのか納得できるだろう。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基底症状は、しばしば自己知覚可能 (self-perceivable) なだけにとどまり、客観的に評価可能な陰性症状とは異なる。 2) 半構造化面接によって、「ある」「ない」「疑わしい」の三段階で評価するが、評定者間の信頼性の検定が必要である。 3) 検定には Cohen の κ 係数を用いるが、base rate の算定により、データにひずみがないことを確認しなければならない。 4) 英米圏の陽性症状評価尺度 (SAPS)、陰性症状評価尺度 (SANS) とどのように相関するか、興味もたれる。 <p>【キーワード】</p>

<p>クラスター 1 : 思考・言語・知覚・運動の障害 (21 項目)、クラスター 2 : 身体感覚の障害 (13 項目)、クラスター 3 : 通常のストレスに対する耐性の低下 (5 項目)、クラスター 4 : 情動ないし感情の障害 (7 項目)、クラスター 5 : 情動反応性の増大 (6 項目)、評定者間信頼度の検定、Cohen の κ 係数、base rate</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科医はかつて「ブレコックス感」という直観診断にたよっていたが、そのどこに問題があったのだろうか。 2) 熟練した精神科医であれば、高い感度(sensitivity)を有するが、特異度(specificity)においては劣っていた。 3) BSABS による症状評価は両方において優れるも、患者の側に「言い当てられる」ような恐怖感が生じうる。 4) したがって、治療的にフォローしやすい入院患者を対象に、熟練した精神科医によって実施されるべきである。 <p>【参考文献】</p> <p>Gross, G., Huber, G., Klosterkötter, M., Linz, M. : BSABS. Bonn Scale for the Assessment of Basic Symptoms. 1st English Edition. Shaker Verlag, Aachen, 2008.</p> <p>Klosterkoetter, J. et. al. : Diagnosing schizophrenia in the initial prodromal phase. Ach. Gen. Psychiatry 25 : 158-164, 2002.</p>	
25～27.テーマ	「強制入院」と「病名告知」の問題
<p>【学習の目標】</p> <p>統合失調症圏の「9つの区画」にせよ Huber 派の基底障害学説にせよ、精神病理学に属するテーマであった。ここでは、狭義の精神保健福祉論に属する2つの問題をとりあげるが、いま歩いたばかりの回り道がけっしてむだではなかったことがわかる。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健福祉論にとって、精神障害者の「強制入院」の是非をめぐる議論は古くて新しいアイテムである。 2) 昨今、心理教育的アプローチの普及とともに、差別・偏見の克服と絡めて「病名告知」がしきりと推奨されようになった。 3) いずれもケース・バイ・ケースであるが、こういう自在さが失われるほど、議論が硬直しているように思われる。 4) その一因として、統合失調症の病像および経過におけるヴァリエティが度外視されていることがあげられる。 <p>【キーワード】</p> <p>パレンス・パトリエ (治療必要性基準、メディカル・モデル、後見的機能、パターナリズム、社会権)、ポリス・パワー (危険性基準、リーガル・モデル、保安機能、オートノミー、自由権)、強制入院 (精神保健福祉法、医療観察法)、統合失調症に対する差別・偏見(社会からの偏見、内なる偏見、リカヴァリー)、インフォームド・コンセント、病名告知、心理教育</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「9つの区画」のパトスのスペクトラム、「情態の変化」「両方の共存」「行動の異常」に即して考えてみよう。 2) それぞれの規定は、「病感も病識もある」「病感はあるが病識はない」「病感も病識もない」と言い換えることができる。 3) 強制入院させざるをえないケースの大半は「行動の異常」に属するであろう、という仮説を導くことができる。 4) 病名告知は「情態の変化」に属するケースで比較的スムーズに行えるだろう、という仮説を導くことができる。 <p>【参考文献】</p> <p>花村誠一：精神科医療における身体の問題—医療観察法の時代に。日本社会精神医学会誌 18 : 363-370, 2010.</p> <p>伊藤哲寛：障害者権利条約と精神医療。精神医学 54 : 125-135, 2012.</p> <p>五十嵐禎人：強制治療が許されるのはなぜか。神庭重信ほか編、専門医のための精神科リュミエール 30『精神医学の思想』, pp191-207, 中山書店, 東京, 2012.</p>	
28～30.テーマ	ICF の精神保健医療福祉への導入
<p>【学習の目標】</p> <p>本科目を閉じるにあたり、援助専門職にとっての日常的なツール、ICF とのインターフェイスを行う。精神障害者ケアマネジメント従事者も、ケア会議のたびにこれを携え、当該クライアントの援助活動に役立てているのではあるまいか。</p> <p>【学習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 改めて、国際障害分類 (ICIDH) からその改訂版である国際生活機能分類 (ICF) への変化をとりあげる。 2) フーコー派言説分析によれば、それぞれ言表のレベルに1つの概念図が据えられていることがわかる。 3) いずれの場合も、この概念図を基礎にして、数多の「障害」をめぐる言説が紡ぎだされることになる。 4) そもそも尺度ではなくて、援助専門職の実践を促進するための「触媒」として働いているかに見える。 <p>【キーワード】</p> <p>国際障害分類 (ICIDH)、国際生活機能分類 (ICF)、健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加、機能障害、活動制限、参加制約、ストレングスモデル、相互作用モデル、背景因子：個人因子・環境因子、統合失調症圏の「9つの区画」</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「9つの区画」の疾病論的スペクトラム、「構造の変形」「欠損の媒介」「力動の逸脱」について考えてみよう。 2) それぞれの規定は「人格に規定される」「精神病が持続する」「再発を繰り返さず」と言い換えることができる。 3) 中間の病態については、両極の循環的プロセスのフィード・フォワードによって進行していくと考えればよい。 4) こういう病態の把握と ICF の使用とを両立させれば、治療および援助に、新たな視界が拓けるかもしれない。 5) ここでは、あくまでも統合失調症圏だけに限定して、ICF の掲げるストレングスモデルを引き受けようとする。 <p>【参考文献】</p> <p>世界保健機関 (WHO) 刊『ICF : 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版』、中央法規、2002 年</p> <p>岡田幸之ほか：ICF の精神医療への導入。精神医学 49 : 41-48, 2007.</p>	

1. 科目名 (単位数)	統計解析特殊講義 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP7204
2. 授業担当教員	金 貞任		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	この授業では、社会福祉研究分野の研究活動において重要な位置を占めている社会調査、特に定量的な調査データの分析を主題とする。その際には、マクロとミクロレベルの視点からの実証的な研究に関する文献を取り上げ、どのような分析手法が用いられているかを検討し、各自の博士論文ではどのような分析手法が有効であるか発見し、応用ができることを目指す。そのためには、まず、データの基本的な考え方について確認する。次に、重回帰分析、プロピット分析、共分散構造分析、因子分析など多変量解析を用いた分析手法について検討する。講義の中では、実際のデータや分析例を紹介しつつ、必要に応じて統計量の計算手順も紹介していく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多変量解析法の多様な分析手法について学習、応用ができるように努める。 2. 博士論文を作成する際、分析結果を読み取ることができるように努める。 3. 各自がデータを分析する際、どのような分析方法が有効であるか発見する。 4. 得られた統計データをどのように解釈・活用するかについて習得する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士、『SPSS による多変量解析』、オーム社、2007</p> <p>P. H. ロッシ・M. W. リブセイ・H. E. フリーマン (大島巖・平岡公一等監訳) 『プログラム評価の理論と方法 システマティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド』、日本評論社、2005</p> <p>教理社会学会監修、『社会の見方、測り方-計量社会学会への招待』勁草書房、2008</p> <p>能智正博、『質的研究法』、東京大学出版会、2011</p> <p>Baltagi, BH. <i>Econometric Analysis of Panel Data</i>. Wiley, 2013.</p> <p>木下康仁、『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践：質的研究への誘い』、弘文堂、2013</p> <p>授業の際に適宜紹介する。</p> <p>【参考書】</p> <p>大村 平、『多変量解析のはなし-複雑さから本質を探る (Best selected Business Books)』日科技連出版社、2006</p> <p>Henry EB and David C (eds.), 2004. <i>_Rethinking Social Inquiry: Diverse Tools, Shared Standards_</i>. Rowman & Littlefield. (泉川泰博・宮下明聡 (翻訳) 『社会科学の方法論争-多様な分析道具と共通の基準』、勁草書房、2008)</p> <p>小塩 真司、『SPSS と Amos による心理・調査データ解析-因子分析・共分散構造分析まで』東京図書、2004</p> <p>太郎丸博、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』ナカニシヤ出版、2005</p> <p>豊田秀樹、前田忠彦、柳井晴夫、『原因をさぐる統計学-共分散構造分析入門』講談社、1992</p> <p>松尾太加志、中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析-数式が絶対に出てこない因子分析入門』北大路書房、2002</p> <p>高橋信、『すぐ読める生存時間解析-カプラン・マイヤー法/ロジスティック回帰分析/コックスの比例ハザードモデルが、よく分かる!』東京図書、2007</p> <p>金貞任『高齢社会と家族介護の変容-韓国・日本の比較研究』法政大学出版局、2003</p> <p>橋本健二、『現代日本の階級構造-理論・方法・計量分析-』東信堂、1999.</p> <p>白波瀬佐和子、『少子高齢社会のみえない格差-ジェンダー・世代・階層のゆくえ-』東京大学出版会、2005.</p> <p>渡辺秀樹・稲葉昭英・嶋崎尚子(編)、『現代家族の構造と変容-全国家族調査 [NFRJ98] による計量分析-』東京大学出版会、2004.</p> <p>その他の参考文献は、授業の際に適宜紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、講義でのディスカッション参加の度合、レポート (小論文)、単位認定試験の結果によって決められる。 2. 院生としての基準に満たない論文は、基準を満たすまで書き直しが求められる。(評価点) <p>A : 100~90、B+ : 89~80、B : 79~70、C : 69~60、F : 59 点以下</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 勉強した分析方法について、必ず復習をすること。 2. 博士論文のデータについて、自分独自の思考枠組みを模索すること。 3. 受講生が生のデータについて、比較分析ができるように努める。 		
13. オフィスアワー	水曜日 : 12 : 00 - 13 : 30 木曜日 : 12 : 00 - 13 : 30		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1~3. テーマ	シラバス、仮説作成、質問票検討、文献の精読		
【学習の目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仮説を作成する 2. 質問項目と選択肢を作成する。 		
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仮説とは何かについて学習する。 2. 良い質問内容と悪い質問内容について学習する。 		

	3. 良い選択肢と悪い選択肢を区別する。 【キーワード】 仮説、質問項目、選択肢
4～5. テーマ	クロス集計表、分散分析、平均値の差の検定、文献の精読
【学習の目標】	データが正規分布であるかどうか検討する。
【学習の内容】	1. クロス集計表：「二重クロス集計表」「確率と帰無仮説」「 χ^2 二乗検定」について検討する。 2. 平均値の差の検定：「分散分析」について検討する。 3. 分散分析を用いた実証論文の精読：分散分析を使った実証論文を読み、実際の論文において分散分析（ANOVA モデル）がどのように使われているのかを把握する。
【キーワード】	二重クロス、平均値、分散分析、帰無仮説、 χ^2 二乗検定
6～7. テーマ	ピアソンの積率相関係数、文献の精読
【学習の目標】	因果関係について検討する。
【学習の内容】	1. 二つの連続変数の間の関連の検討方法を学ぶ。関連性の形を確認するための散布図と、直線的関連の強さを示すピアソンの積率相関係数について、その原理と検定方法について検討する。 2. 重回帰分析：「3 変量重回帰モデル」「独立変数が 3 つ以上の重回帰分析」「ダミー変数を用いた重回帰分析」について学習する。 3. 重回帰分析における予測の精度を表す決定係数の考え方について検討する。 4. 重回帰分析を用いた実証論文の精読：重回帰分析を用いた実証論文を読み、実際の論文において重回帰分析がどのように応用されているかを把握する。
【キーワード】	決定係数、F 検定、ダミー変数、標準化回帰係数、自由度調整済み決定係数、残差分析、多重共線性
8～13. テーマ	重回帰分析、ロジスティック回帰分析、文献の精読
【学習の目標】	1. 重回帰分析について検討する。 2. 二項ロジスティック回帰分析と多項ロジスティック回帰分析について検討する。
【学習の内容】	1. 重回帰分析について把握する。 2. 重回帰モデルが適切であるか、回帰診断の方法について検討する。 3. ロジスティック回帰分析：二項ロジスティック回帰分析と多項ロジスティック回帰分析について検討する。 4. ロジスティック回帰分析を用いた実証論文の精読：ロジスティック回帰分析を用いた実証論文を読み、実際の論文においてロジスティック回帰分析がどのように使われているのかを把握する。
【キーワード】	重回帰分析、ロジスティック回帰分析、オッズ、ロジット、最尤推定法
14～17. テーマ	因子分析、文献の精読
【学習の目標】	因子分析の構造について検討する。
【学習の内容】	1. 因子分析：「因子分析(直交回転)」「因子分析(斜交回転)」について検討する。 2. 因子分析を用いた実証論文の精読：パス解析、因子分析を用いた実証論文を読み、実際の論文においてパス解析、因子分析がどのように用いられているのかを理解する。
【キーワード】	因子分析、直交回転、斜交回転
18～21. テーマ	ロジット分析、文献の精読
【学習の目標】	ロジット分析方法について検討する。
【学習の内容】	1. ロジット分析：ロジット分析の機能、目的、データタイプについて検討する。 2. ロジット分析を用いた実証論文の精読：ロジット分析を用いた実証論文を読み、理解する。
【キーワード】	ロジット分析、有意係数
22～25. テーマ	パネルデータの入力・分析、文献の精読（外部講師）
【学習の目標】	1. パネルデータの仕組みを理解する。 2. パネルデータ分析方法について学習する。
【学習の内容】	1. パネルデータの入力方法について身につける。 2. 記述分析、単純集計、クロス集計、重回帰分析について学習する。 3. 配布資料を精読する。
【キーワード】	パネルデータ、データ入力、データ分析
26～29. テーマ	質的研究、グラウンデッドセオリー（or 外部講師）
【学習の目標】	1. 質的研究とはどんな方法であるか理解する。 2. 質的研究の分析方法として、グラウンデッド・セオリーについて検討する 3. グラウンデッド・セオリーの分析方法を検討する。
【学習の内容】	1. 質的研究のアプローチについて学習する。 2. グラウンデッド・セオリーのアプローチと分析方法について学習する。 3. グラウンデッド・セオリーのアプローチに基づきインタビュー調査を実施する。 4. グラウンデッド・セオリーに基づき、質的データを分析する
【キーワード】	質的研究、グラウンデッド・セオリー、インタビュー調査
30. テーマ	量的データの分析方法の応用、論文作成
【学習の目標】	量的データの分析方法に基づき、レポートを作成する
【学習の内容】	1. 量的データの分析の手順に基づき、分析方法を確認する。 2. 研究目的に基づき、レポートを作成する 3. レポートの質を高めるためのスキルを身につける。
【キーワード】	量的データ、レポート、論文の質

1. 科目名 (単位数)	非営利企業特殊講義 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP7209
2. 授業担当教員	菊池 敏夫		
4. 授業形態	講義を主にしつつ、質問、報告、討論の時間をつくり進めていく	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	<p>この講義は非営利企業といわれる企業について、次のような問題意識を基底にして進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 非営利企業組織 (NPO-Nonprofit Organization) および最近、社会的企業 (Social Enterprise) といわれる企業が活発に活動している理由、背景は何か。 2) 非営利企業および社会的企業といわれる企業の特徴、営利企業との異質性、共通性は何か。 3) NPO 法人など非営利企業についての法規制の内容、推移はどのようなものか。 4) 非営利企業とそのステイクホルダー (利害関係者) との関係にはどのような問題があるか。 5) 非営利企業の企業統治 (コーポレート・ガバナンス) および経営管理上の特徴および問題点は何か。 <p>以上の問題意識のもとに別記の日程で進めていく。</p>		
8. 学習目標	<p>この講義では次のような学習目標に向かって進めていく、1) 企業のなかで営利企業と比較される非営利企業の特徴、営利企業との基本的な相異点および組織としての共通性への理解を深める。2) NPO および社会的企業の活動の状況は日本だけでなく、ヨーロッパ諸国、発展途上国においても活発な動きを示しており、非営利企業の世界的な潮流、その方向への理解を深める。3) 非営利企業の経営組織としての健全性、効率性を維持するために解決すべき経営管理、企業統治上の問題に対する理解を深めること。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>講義でとりあげた問題、およびそれに関連した問題について、テーマを示し、レポートを作成、または報告などにより、自立的研究の機会を提供する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 教科書は使用しない。 毎回、講義に使用する資料を配布、講義内容の要旨、参考資料、参考文献を示す。</p> <p>【参考文献】 「企業統治論」(第6章) 菊池敏夫 金山 権 新川 本編著 税務経理協会 2014 年。 「ソーシャル・エンタープライズ社会的企業の台頭」 谷本寛治編著 中央経済社 2006 年。 「Effective Non -Profit Management: Context, Concepts, and Competences Shamima Ahmed, CRC Press. 2013. 「非営利企業設立・運営ガイドブック：社会貢献を志す人たちへ」 太田達男著 公益法人協会 2012 年。 “The Changing Boundaries of Social Enterprise. OECD, 2009.” 「社会的企業の主流化：新しい公共をめざして」 OECD 編著 連合総合生活開発研究所訳 明石書店 2010 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業への参加度 40% 中間報告レポート 30% 最終レポート 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>一般に NPO とよばれる非営利企業組織および、近年社会的企業とよばれる企業の活動が活発化しており、経営的視点から企業組織、経営管理を研究する必要がある。受講生は、この新しい企業形態に関心を抱き、社会福祉、教育関連の事業の多くが非営利企業によって担当されていることから、新鮮な感覚で問題を直視し研究して欲しい。</p>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	非営利企業とはどのような企業か、その形態、活動の状況などの理解を深める		
2. テーマ	非営利組織 (NPO-Nonprofit Organization) および社会的企業 (Social Enterprise) といわれる企業が近年、数多く設定され活動するようになった背景、理由は何か		
3. テーマ	非営利企業が営利企業と区別される基本的な要因は何か		
4. テーマ	企業組織とステイクホルダー (利害関係者) との関係、非営利組織の特徴		
5. テーマ	非営利企業と地域社会との関係、コミュニティの期待と要求への対応		
6. テーマ	非営利企業の顧客との関係、マーケティングの特徴と問題		
7. テーマ	企業間の競争要因—価格と非価格要因への配慮と対応		
8. テーマ	価格、原価、間接費の関係への認識		
9. テーマ	企業における資本の管理、資本収益性と財務流動性の管理、非営利企業の特徴		
10. テーマ	資本固定化の危険、運転資本、流動性低下による倒産とリスクへの対応		
11. テーマ	報告、討論、中間レポートについての説明		
12. テーマ	非営利企業におけるスタッフ (従業員、ボランティア) —職務内容、権限と責任、参加の問題		
13. テーマ	組織の編成、形態、リーダーシップにおける NPO の特徴		

平成 28 年度

14. テーマ	非営利企業と営利企業における成果配分の相違点
15. テーマ	企業統治とは何か、非営利組織における企業統治、営利企業との比較
16. テーマ	株式会社の株主総会と非営利企業の社員総会—その異質性と共通性
17. テーマ	株式会社の取締役会と非営利企業の理事会—いずれも Board であるが相違点と最近における両者の接近の傾向
18. テーマ	企業組織における方針、戦略策定と執行機能の関係
19. テーマ	非営利企業における顧客、製品、サービスへの戦略的な考え方、1) 市場拡大、2) 新製品・新サービスの開発、3) 多角化（製品・サービスの多角化と事業の多角化）の考慮
20. テーマ	経営立地の選定の重要性、立地因子の検討—自然的立地因子と経済的立地因子の分析と評価、大規模災害の教訓
21. テーマ	非営利企業における事業継続計画（BCP—Business Continuity Plan）の必要性—サプライチェーン中断の回避
22. テーマ	非営利企業における PR 活動の役割—PR と広告—
23. テーマ	報告、質問、討論、最終レポートの説明
24. テーマ	非営利企業における中枢機能と組織、営利企業の本社組織との比較
25. テーマ	非営利企業の最近の状況—協同組合企業の特徴と問題点
26. テーマ	社会的企業（Social Enterprise）の先進国および発展途上国における発展
27. テーマ	非営利企業に関する法規制の動向
28. テーマ	非営利企業の設立、運営に関する参考資料、文献の紹介
29. テーマ	非営利企業に関する最近の研究の動向
30. テーマ	講義全体のまとめ、総括、質問、最終レポート提出